

第四十四回帝國議會
衆議院

國有財産法案委員會會議錄(速記)第六回

會議

大正十年二月四日午後一時三十五分開議

出席委員左ノ如シ

清水市太郎君 澤 來太郎君 宮古啓三郎君
日野 辰次君 竹上藤次郎君 深見寅之助君
野口忠太郎君 佐野 正雄君 伊藤 廣幾君
清 峯太郎君 高木 正年君 金澤安之助君
森山儀文治君 中川幸太郎君 上畠益三郎君
出席政府委員左ノ如シ

樺太廳長官 永井金次郎君
樺太廳事務官 石坂 豊一君
內務省參事官 山田準次郎君
大藏省主計局長 西野 元君
大藏書記官 太田嘉太郎君
主計局書記官 河本 文一君
農商務次官 田中 隆三君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

國有財産法案

○委員長(清水市太郎君) 是カラ開會致シマス

○金澤安之助君 私ハ此處ニ出席致シマシタノハ初
メテデアリマスガ、此以前私ト同ジ質問ヲ爲シタ人
モアルカモ知レマセヌガ——既往十箇年ニ於ケル賣
拂國有地ノ筆數及町步、ソレカラ同上ノ代金ノ府縣
別、一段歩ニ就テ幾ラト云フ代金府縣別、詳細ナ調ヲ
各員ニ頂戴致シタイト云フコトヲ御願ヒ致シマス、
尙ホ農商務省所管國有林野ニ就テ、別ニ豫約開墾ヲ
致シテ居ル所ノ府縣別ノ町步及筆數、ソレカラ尙ホ
此前降旗君ガ質問シタト云フコトヲ聞イテ居リマシ
タガ、雜種財産ノ府縣別及省別ニシテ詳細ナル調ヲ
頂戴致シタイ、是ハ私ノミナラズ各員殘ラズニ配ッテ
戴キタイト云フコトヲ御註文致シテ置キマス

○委員長(清水市太郎君) 農商務省ノデスカ

○金澤安之助君 農商務省ノ許リデナイ、省別デア
リマスカラ、各省別ニ確ニ調ノアル筈デアリマス

○河本政府委員 只今既往十箇年ニ於ケル賣拂國有

地ノ府縣別、筆數、町步及其代金、ソレカラシテ其雜
種財産ノ府縣別ノ内容ト云フコトニ就テ、資料ヲ御
要求デゴザイマシタガ、是ハ唯今調バツタモノガゴザ
イマセヌノデゴザイマス、是ハ內務省ニ於キマシテ
今現ニ扱ッテ居ルノデゴザイマスルカラ、內務省ノ方
ニ於キマシテ其資料ガ出來ルカモ知レマセヌガ、併
シモ二三日トカ云フヤウニ早急ニハ出來兼ネルト
思ヒマス

○金澤安之助君 ソレデハ何時頃ソレガ頂戴出來マ
セウ

○河本政府委員 ソレハ內務省ノ方ノ現在取扱ッテ
居リマスル取扱者ノ方ト宜ク協議シマセヌケレバ、
何時ト云フコトニ御答スル譯ニ參リマセヌノデアリ
マス

○伊藤廣幾君 私ハ樺太ノ國有林ニ就テ御尋ネ致シ
タイト思ヒマスルガ、先般樺太長官ノ御説明ニハ、樺
太ノ森林ノ總材積ハ五億石ニシテ、其中一箇年ニ各
製紙會社ニ原料ヲ拂下マスル石數ハ六百萬石デア
ルト云フヤウナ御話デゴザイマス、而シテ又御示シ
ナリマシタ書類中ニ御記載ニナッテ居リマスル所ノ
確定シタ拂下ノ石數ハ、約一億二千萬石ノ石數ニナ
テ居ルヤウニ思ヒマス、漫然五億萬石ノ材積カラ一
億二千萬石ノ材積ヲ拂下ゲルト云フコトニ就テ、何
等支障ノ無イヤウニ見エマスルケレドモ、此樺太ノ
森林ノ總面積ハ、御示シニナッテ居ル所ノ次第カラ見
マスルト云フト、三百萬町步位ノ面積ヲ有シテ居ル
ヤウデアリマス、其總面積ノ中ニハ、未開地トカ、將
來農工地ニ拂下ゲナケレバナラヌ所ノ土地モ含ンデ
居ル様ニ思ヒマス、又私共ノ考フル所ニ依リマスル
ト云フト、樺太ノ開拓ハ何ニ依ッテ施行スルカト申シ
マスルト云フト、森林ト云フモノハ、最モ拓地殖民上
ニ於テ大切ナルモノト考ヘルノデアリマス、ソレ故
ニ譬ヘテ申シマスレバ、不用デアルト今日認メテ居
リマスル所ノ森林ノ中ニモ、將來拓地殖民ノ計畫ヲ
立テル上ニ於キマシテハ、其森林中ニ必ズ此公有林

ト云フモノモナケレバナラナイト思ヒマス、又保安
林ト云ウテ、永久ニ樹木ノ伐採ヲ許サナイ所ノ國土
保安林ト云フモノモナケレバナラナイト思ヒマス、又
其外ニ薪炭等ノ必要ハ、寒國デアリマススカラ殊更ニ
必要デアルト思フノデアリマス、サウシマスルト云
フト、薪炭林ト云フモノモ殊ニ存置シテ置カナケレ
バナラヌト思ヒマス、殊ニ此薪炭林ト云フモノハ、最
モ大切ナル所ノ林デゴザイマシテ、食物デゴザイマ
スレバ、遠方ヨリ輸送モ出來マスケレドモ、此薪炭材
ト云フモノハ、遠方ヨリ輸送致スコトノ出來ナイト
云フノハ當然デゴザイマス、而シテ樺太ニ永久ニ其
處ニ居住スル者ノ立場カラ見マスルト云フト、食物
ヨリモ尙ホ以上ノ必要ガ薪炭デアラウト考ヘマス、
ソレ故ニ此私有林ト云フモノモ其處ニ設ケナケレバ
ナルマイト思ヒマス、斯ク觀來レバ、森林ノ總面積
ハ三百萬町步以上デゴザイマスルケレドモ、其中ヨ
リ公有林ヲ取り、保安林ヲ取り、或ハ私有林ヲ除キ、
而シテ未開地ト致シテ農耕ニ適スル所ノ土地モ其中
ニ含ンデ居ルト云フコトデゴザイマスルカラ、之ヲ
除カナケレバナラナイト云フヤウナコトニナラウト
思ヒマス、此公有林ト云フコトニ就キマシテモ、是ハ
一ツノ町村ヲ形造ルニ於キマシテモ、ドウシテモ此
町村ノ附屬シタモノノ林ガ必要ナノデアリマス、是
ハ北海道ヲ開拓致シマスル際ニ於キマシテモ、此公
有林ノ存置ト云フコトハ、比較的政府ニ於テ之ヲ存
置スルコトノ計畫ガ無カッタ爲メニ、如何程北海道ノ
町村ト云フモノハ困難ヲシテ居ルト云フヤウナ事情
カラ考ヘマシテモ、又我國ニ於ケル國有林ノ總面積
ハ七百萬町步ヲ超エテ居リマスガ、其半バノ面積ハ
公有林ニナッテ居ルノデアリマス、即チ是ハ町村林ニ
ナッテ居ルノデアリマスガ、斯ノ如キ割合ヲ此府縣ニ
於テ持ッテ居ルコトデゴザイマスルカラ、若シ將來ニ
於テ樺太ノ拓地殖民ノ計畫ガ完成ヲ致シマシテ、村
ヲ形造ルト云フ事ニナリマスレバ、必ズ相當ノ公有
林ト云フモノモ附與シナケレバナラヌコトニナラウ

ト思ヒマス、斯ク觀マシレバ今ノ國有林ト云フモノニ對シテハ、是ガ斯ノ如キ材積ガアルカラト云ウテ、約四分ノ一二近キ一億二千万石ノ材積ヲ、或ル特殊ナル所ノ製紙會社ニ之ヲ賣拂フ契約ヲスルト云フコトハ、如何ナモノデアラウカ、今ヤ樺太ノ開拓ハ半バニ達シナイ、著手中ト云ウテモ宜イノデアリマス、此樺太ノ現狀カラ見マシタナラバ、元ハ漁業ヲ以テ樺太ハ有望ノ者ト考ヘテ居リマシタケレドモ、其漁業モ年々歳々漁業ヲ見ルト、段々ニ其收穫ガ減ツテ行クト云フヤウナ有様デアリマス、而シテ殘ル所ノ陸地ヲ見マシレバ、今日ハ幸ニ森林ノ存在ハシテ居ルノデアリマスガ、此大切ナル所ノ森林ヲ漫然之ヲ拂下ゲルト云フコトニナリマシタナラバ、其森林モ陸上ニ於テ失フト云フコトニナツテ來タナラバ、何ヲ以テ樺太ト云フモノノ拓地殖民ノ成績ヲ示スコトガ出來ルデアラウカ、森林ト申シマスレバ、樺太ニ於キマシテハ今日ニ於テハ最モ大切ナル所ノモノデナケレバナラスト思ヒマス、サウシテ樺太ノ拓殖ヲ完成シヤウト思ヒマスレバ、ドウシテモ移民ヲ益々多カラシメナケレバナラヌ、移民ヲ多カラシムルニハ、隨テ町村ト云フモノヲ形造ツテ行カケレバナラヌ、町村ヲ形造ツテ行キマスルニ就テハ、其土地ニ必要ナル所ノ役場ノ敷地モ要シマセウシ、或ハ小學校ノ敷地モ要シマセウシ、或ハ又精神上ノ教育ノ爲メニ、所謂移民ニ對シテ安心ヲ與ヘル爲メニ、精神上ノ教育ノ必要上カラ、或ハ寺院ノ必要ヲ生ジマセウシ、其他公益上ノ土地モ要スルダラウト思ヒマス、サウシマスレバ將來ヲ考ヘテ樺太ノ拓殖ヲ計畫スルトナレバ、今ヨリ是ガ不用ノ森林デアアル、詰リ不用ノ材積デアルト申シテ、多大ナル所ノ物ヲ獨占ノ製紙會社ニシマスルト云フト、誠ニ杞憂ニ堪ヘナイ事ト考ヘルノデアリマス、御承知ノ通り英吉利ノ植民地ノ成功致シタノモ、佛蘭西ノ植民政策ノ失敗致シタノモ、其土地ニ永ク住スル所ノ民ヲ適當ニ植付ケテ、サウシテ其土地ノ住民ト致スト致サザル所ノ結果ニ依ツテ岐ル、ト思フノデアリマス、即チ一時其處ニ人ガ行ツテ、所謂利權ノアル——利益ノアル時分ニハ其處

ニ住ンデ、其利益ヲ失ヘバ直チニ其土地ヲ去ルト云フヤウナ、一時的ノ移民ヲ招來スルト云フヤウナ政策ヲ執リマスレバ、森林ガアツテ、サウシテ其木材ノ利益アル中ハ居リマセウガ、或ハ又漁業ノ盛ナル時分ニハ其者モアリマセウケレドモ、若シ其利益ガ無クナツタナラバ、直ニ其土地ヲ去ルト云フヤウナ傾向ノアルノハ、是ハ亦當然デアアルデアリマス、ソレ故ニドウシテモ土地ヲ拓クト同時ニ、其移民ガ永ク一ツノ町村ヲ形造リ、サウシテ子孫々安ンジテ其處ニ居住スルト云フ様ナ方法ヲ執ラナケレバナラヌト思フ、斯ウ云フヤウナ見地カラ、又私共ガ北海道ニ於テ一ツノ町村ヲ形造ツテ、今日子孫々其地ニ住フト云フ——住フベク決心ヲシテ、舊來ノ施設ニ鑑ミマシテ、ドウシテモ當初ニ於テ大々的將來ノ計畫ヲ立テナケレバナラヌト思ヒマス、ソレ故ニ私ノ御尋ヲ致シタイト申シマスルノハ、將來ニ於ケル所ノ保安林トシテ存置スベキ所ノ面積ハ、大體ニ於テドレ程制定シテ存置シテ居ラル、御計畫デアルカ、或ハ又公有林トシテ町村等ニ付與スベキ所ノ豫定地トシテ存置スル所ノ森林ガ如何程アルカ、或ハ又私有林トシテ——語ヲ換ヘテ言ヘバ薪炭用林トシテ、之ヲ人民ニ拂下ゲルベク豫定シテ居ル所ノ面積ハ如何程デアルカ、或ハ又國有林ノ性質、詰リ營林財産トシテ永ク其處ニ利殖ノ方法ヲ立テ、サウシテ存置シテ行ク所ノ面積ハドレ程デアルカ、斯ウ云フ事ヲ一應御尋ヲ致シテ見タイト思フノデアリマス、御承知ノ通り、北海道ヨリ、ヨリ以上寒キ所ノ土地ニ於テハ、總テノ植物ノ成長ハ最モ鈍イ、ソレ故ニ此森林ノ經營モ、單ニ天然更新法ニ依テ百年ノ案ヲ立ツテ、百年毎ニ更新スル意味ニ於テ、輪伐法ヲ以テ之ヲ成功セラル、ト申サレテ居リマスルガ、天然更新法モ、林業ニ於キマシテハ一ツノ方法ニ違ハナイノデアリマス、併ナガラ寒地ニ於ケル所ノ實驗カラ見マスルト、一タビ立派ナル所ノ山林ヲ伐リ拂ツシマフト云フト、其儘ニ致シテ置キマスルト、暖地ノ所ノヤウニ其樹木ハ自然ニ繁茂スルト云フ事ハ極メテ難イノデアリマス、北海道アタリノ土地ニ於キマシテモ其通りデアリマス、一タビ之ヲ伐ツシマフト云フト、コ

チラノ府縣ノヤウナ暖地デアリマスルト、根カラ更ニ芽ガ生ヘテ、サウシテ自然ト成長スル所ノ所謂天然ノ恩惠モゴザイマスケレドモ、一タビ伐ツシマフト、寒地ニ於テハ根カラ是ガ發生スルト云フコトガナイノデアリマス、斯ノ如キ實際上ノ見地カラ觀マサルト、此莫大ナル所ノ樹木ヲ今ヨリ伐リ拂ツシマツタナラバ、其山ガ全ク木ノ無イ山ニ終ツテシマイハシナイカ、サウシタナラバ、山林ニ木ノ有ルト無イトニ依ツテ文明ノ優レルト劣レルト云フコトノ「パロメートル」ニナツテ居ルト云フヤウナ話モアリマスルガ、即チ山ニ木ガ無ケレバ其國ガ滅ビルト云フ所ノ謠モアリマス通り、彼ノ寒イ土地ニ於テ山ガ悉ク坊主ニナツタラ、何ニ依ツテ樺太ノ住民ガ將來永住ガ出來ヤウカ、斯ウ云フ事ハ最モ考ヘナケレバナラヌコトト思フノデアリマス、或ハ樺太ハ其外ニ鑛山ガアリマス、鑛業ハ相當富ンデ居ルト言ハレマスケレドモ、鑛山ナルモノハ掘ツテ見ナケレバ明カニドレ程ノモノガアルト云フコトハ分ラヌノデアリマス、而モ海ノ方デハ漁業ガ衰頽シテ居ル、陸ニ於テハ森林ヲ伐リ盡シテ坊主山ニナツタラ、樺太ノ開拓ハ何ニ依ルカト云フ結論ニ達スルノデアリマス、ソレニ故ニ何等カノ御計畫ガアルニ違ヒナイ、折角國道ヲ拓イテ樺太島ノ開拓ニ從事サレテ居ル場合デアリマスカラ、其完成スベキ何等カノ御計畫ガアルト思ヒマスケレドモ、斯ル僅カノ森林經營デサヘモ御説明ノ通りデアリマスカラ、以上述べマシタ事項ニ付テ御計畫ノ一端ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○永井政府委員 只今ノ御質問ニ御答致シマス、其以前ニ先日清君カラ御質問ガアリマシテ、其時私ハ缺席シテ居リマシタカラ委員長カラ御傳達ヲ得マシテ其模様ヲ拜聴致シマシタ、ソレニ御答致シマスガ、要スルニ此處ニ御參考トシテ申上ゲマス、樺太ノ拓殖上、半バ義侠心ヲ以テ之ニ當ルト云フ事ニ御不審ガアツタヤウニ思ヒマス、是等ノ點ハ要スルニ只今ノ御質問ニモ御答致スノデアリマスガ、要スルニ其當時ニ於テハ、會社ト云ヒ、當局ト云ヒ、ハルブニ向ツテ非常ニ熱心デアッタノデ、當業者ガ先ヅ損ヲスルカ得スルカ、或ハ儲カルカモ知レヌ、非常ニ當ルカモ知

レヌケレドモ、兎ニ角今日ニ於テハ義侠心ヲ以ッテヤ
ルヨリ外ニ仕方ガナシ、斯ウ云フコトヲ聽イテ居ッ
タノデゴザイマスノデ、當時ノ狀況ノコトハ左様ニ
御承知ヲ願ヒマス

○清室太郎君 一寸私ハ頭ガ悪イノデ、餘リ長クナ
ルト事柄ヲ忘レマスカラ、今一ツ御尋シタイ、其當時
樺太長官ハ「バルブ」ニ非常ニ熱心デアアルカラ、無理
ニ人ニ勸メテヤラセタト云フノデアリマスガ、サウ
スルト長官ハ商賣ヲスルコトニナリマスネ、損ヲス
ルカ得ヲスルカ、人ニ勸メテヤラセタ、何カ見込ヲ付
ケテヤッタト云フコトニナリマスカ

○永井政府委員 其點デアリマス、要スルニ其問題
ハ只今ノ御質問ニ御答スレバ御了解下サルコト思
ヒマス、森林ノ問題ニ就テハ、先日來段々御質問ガア
リマスガ、申上ゲヤウガ足りマセヌデ、多少御了解出
來ナカッタ點モアラウト思ヒマスカラ改メテ申上ゲ
マス、此樺太ノ森林ハ、樺太ニ取リマシテ重大ナル
問題デアリマスノデ、歴代ノ當局ハ其森林事業ニ就
テ十二分ノ注意ヲ致シテ居リマス、而シテ其原則ト
シテハ、樺太ノ森林ヲ永遠無窮ニ保持スルト云フコ
トト、ソレカラ樺太ノ森林ヲ如何ニシテ利用スベキ
カト云フ點ヲ考ヘタノデアリマス、ソレデアリマス
カラ一面ニハドウシテモ樺太ノ森林ナルモノハ永遠
無窮ニ保持シナケレバナラヌト云フコトヲ一方ニ考
ヘ、一方ニ於テハ是ダケノ森林ガアルカラ、之ヲ如
何ニ利用スベキカ、如何ニ森林ノ效用ヲ全クスルヤ
ト云フコトニ付テ考ヘテ居ッタノデアリマス、ソレデ
此問題ニ就テハ、第一森林ノ成育狀態ヲ考ヘナケレ
バナラヌ、樺太ノ森林ハ一體何年ニ於テ相當ニ成長
スルデアラウカト云フ點ヲ大ニ研究ヲ要シタノデア
リマス、ソレデ色々學者ノ説モ聽キ、經驗家ノ説モ
聽キマシテ、兎ニ角第一安全率トシテハ百年輪伐、百
年輪伐デアアルガ、大體七十年若クハ八十年ノ間ニ相
當ナ成長ヲスル、而シテ其效用ヲ達スル様ニナラウ
ト云フコトデアリマスカラ、先ヅ七八十年ヲ安全率
トシテ、百年輪伐ノ大體方針デヤッテ居リマス、其範
圍ニ於テ成ベク森林ヲ利用シナケレバナラヌ、其利
用ヲスルコトハ、樺太ノ開發及財政ニ於テ最モ急務

ト考ヘタノデアリマス、其結果トシテ樺太ノ開發、
樺太ノ開發ニハ何ガ一番適當デアアルカ、其森林ヲ最
モ利用スル上ニ何ガ一番適當デアアルカト云フ事ニ就
テハ研究ノ結果「バルブ」ノ製造ガ開發上財政上最モ
適當ナリト考ヘタ次第デアリマス、森林ノ利用ハ申
ス迄モナク、樺太ノ樹木ノ性質ノ上カラ「トド」松、
蝦夷松ノヤウナ物ガアリマシテ、其性質ガ非常ニ「バ
ルブ」ノ製造ニ適シテ居リマス、一面カラ言フト森林
ヲ利用シテ「バルブ」ヲ製造スルニハ、大ナル資本ガ
要ル、大ナル勞力ガ要ル、大ナル資本勞力ガ要ルト云
フコトニナルト——樺太ニ於テ大ナル資本勞力ガ
要ルト云フコトデアリマスルト、其結果樺太ノ開發
ニハ非常ニ宜イ、又森林ノ效用カラ云ツテモ、將來有
望デアアル、將來最モ有望ナ品物デアルト云フ點カラ
考ヘテ、品物モ安全ナル品物ト考ヘテ、ソレヤコレヤ
カラ、樺太ノ開發上カラ云ツテモ、拓殖上カラ云ツ
テモ、「バルブ」ノ製造ガ必要デアルト云フノデ、「バル
ブ」ヲ製造セシムル原則ヲ取ツタノデアリマス、此原
則ヲ取リマシテ百年輪伐ノ範圍ニ於テ此「バルブ」製
造ヲ適當ナリト云フ方針ト致シマシタノデアリマ
ス、隨テ只今御質問ニ一億某ト云フ御話デアリマシ
タガ、要スルニ私ノ方ノ計算ハ六百万石ト云フ調査
ニナツテ居リマス、一億ト云フノハドウ云フ計算カ
知ラスガ、此表ニモアル通り、最高ガ六百万石ニナル
ヤウニナリマス、二十箇年ノ中ノ最高デアリマス、
賣拂ツテ行クト其最高ガサウナリマスガ、只今ノ計算
ノ趣旨ガ、私ノ方ノ計算ト違ッテ居リハシマスマイ
カ、ソレハ後トデ御質問ニ應ジテ御答致シマスガ、要
スルニサウ云フ方面カラ、樺太ノ開發上只今申上ゲ
マス如ク、百年輪伐ノ範圍デ、成ベク七八十年ト云
ヘルガ如キモノデ、國有林ヲ處分スル契約ヲ締結シ
タ次第デアリマスガ、併シ只今御尋ノ要點ハ、總テ國
有林ヲ「バルブ」ニ對スル經濟林トスル、公有林保安
林ト云フヤウナモノハ、全ク除外スルカト云フ御話
デアリマスガ、其點ハ全クサウデハアリマセヌ、此
點ハ斯ウ云フコトニナツテ居リマス、保安林トシテモ
五十万町歩、地方備林ガ六十万町歩、其外ニ豫備林ト
シテ三十万町歩、其他工業用トシテ五十万町歩バカ

リ取ツテアリマス、デアリマスカラ只今御尋ノヤウナ
森林ハ總テ保存シテアリマスガ、其中別段ニ市町村
有林トシテハ備ヘテゴザイマセヌガ、是ハ地方備林
ノ如ク移住民ニ對スル建築用材、或ハ薪炭用材、其他
移住民ガ若干要リマスヤウナモノハ、總テ地方備林
カラ之ヲ取ルト云フコトニナツテ居リマス、ソレデ地
方備林ガ六十万町歩備ヘテアリマスカラ、豫備林ガ
三十万町歩アツテ、其外ニ工業用ノ森林ガ五十万町
歩取ツテアリマス、要スルニ此「バルブ」ヲ造ルベク若
干ノ植林ヲ豫備トシテ備ヘテ居ル、斯様ナ事カラシ
テ私ノ考ニ於キマシテハ、樺太ノ森林ハ決シテ植民
地トシテ何等ノ障礙ハ無イヤウニ思フノデゴザイマ
ス、尙ホ此契約ノ上ニ於キマシテモ、地方備林ノ點
ニ於キマシテ、地方住民ニ必要ガアリマシテ、尙ホ此
六十万町歩以上ニ互ルヤウナコトガアリマスレバ、
契約ノ文面カラ若干除クコトニナツテ居リマスカラ、
此必要ノ場合ニハ妨グ無イ事トナツテ居リマス、斯ウ
云フ次第デアリマスカラ、樺太ノ森林ノ伐採ハ決シ
テ濫伐荒廢ニナルト云フヤウナ憂ハ私ハ無イト考ヘ
テ居リマスノミナラズ、決シテ常軌ヲ逸シナイヤウ
ニ色々ト注意ヲ致シテ居リマス、尙又申上ゲテ置キ
タイノハ、只今植民地ニ於テ専ラ薪炭トシテ使用シ
テ居リマスノハ、樺太ノ森林ヲ伐採シテ薪炭トシテ
居リマスガ、是ハ大ニ研究ヲ要スベキ問題ト思ヒマ
ス、將來ニ於テハ樺太ノ石炭ハ、是ハ私ノ方ノ見込デ
ハ、相當豐富ニ石炭ガ出ルノデ、是ハ早晚採掘スル順
序ニナラウト思ヒマスカラ、一方ニ此石炭ヲ樺太ノ
薪炭用トシテ早く採掘シテ、地方用ノ薪炭ニ代ヘタ
イト思フノデアリマス、サウ致シマスルト、其森林ノ
上カラモ餘程餘裕ガ出ルノデアリマス、サウ云フ様
ナコトカラ、樺太ノ森林トシテハ、今日ノ所相當計畫
ノ下ニ行ツテ居ルノデアリマス、ソレカラ天然更新ニ
就テ申上ゲマスガ、天然更新ト致シマシテハ、先ヅ天
然更新ヲ助成スルコトニ就テハ、相當ニ人工モ加ヘ
ル必要モゴザイマスルノデ、今回ノ豫算ニ於テモ、
天然更新ノ育成ニ就テモ若干認メテ居リマス、其外
ニ人工造林ニ就テモ相當ニ計畫致シテ居リマス、人
工造林ト見ルベキモノガ十六万町歩ゴザイマス、無

立木地ニ於テ成ベク早ク造林シテ、相當ナ收益ハ助成シタイト云フノデ、此人工造林ヲ若干ヤツテ居リマス、其外森林ニ對シテ最モ憂フベキモノハ森林ノ火災デアリマス、此際ニ於ケル森林豫防、火災豫防ト云フコトヲ計畫シテ居リマス、デアリマスカラ、只今御心配ニナルヤウナコトハナク、相當ニ效果ヲ舉ゲルヤウニ致シテ居リマス、尙ホ只今ノ御尋ネデアリマシタカ、樺太長官ハ商業ト云フヤウナ意味デハアリマセヌ、只今申シタヤウナ次第デ、樺太ノ開發ハ如何ニスルカト云フ上ニ就テハ、ドウシテモ森林ノ利用ニ在リ、森林ノ效用ヲ適當ニスルニ在リト考ヘテ、バルブノ效用ガ適當ナリト認メテ居リマスガ、何分ニモ樺太ノ「バルブ」ノ製造ハ、其當時十分ニ發達致シマセヌカラ、ヤル者ガナカタノデ、其時ノ長官ハ非常ニ苦心努力ヲ致シテ、各方面ニ誘導シテヤツテ見タノデアリマス、ヤツテ見ルハ、果シテ是ガ今日ノ如ク有望デアリ、今日ノ如ク確實ナ事業デアルト云フ事ハ、十分ニ確信ガ無イカノヤウニ聞イテ居リマス、併シ折角國家ノ爲メナラバヤツテ見ヤウト云フ考ヨリ、當業者モ其氣ニナリマシタ、隨テ樺太ノ森林ヲサウ云フ風ニ當業者ガ國家ノ爲メニヤツテ見タイト云フコトニナリマシタ爲メニ、成ベク相當ナ便利ヲ與ヘル上カラシテ、森林ヲ成ベク安クシヤウト云フノデ、北海道ノ森林ノ代價ヨリモ餘程安ク致シタノデアリマス、大體其點ニ就キマシテハ相當ニ便利モ與ヘマシタケレドモ、一方ニ會社ガ成立致シマシテ、會社ノ事業ガ時局ニ遭遇シタ爲メニ、大變ニ有利ナ事業ニナツテ、會社又相當ニ利益ヲ收メルヤウニナリマシタカラ、樺太廳ニ於テ、北海道ヨリ非常ニ安ク契約致シマシタケレドモ、段々當業者ト協議ヲ遂ゲマシテ、今日ハ相當ノ代價マデ引上ゲテ居ルノデアリマス、一方ニ當業者ノ經營ガ成ベク圓滿ニ行クヤウニ、又一方ニ樺太廳トシテ財政ノ上ニ出來ル限リ補助ヲシテ行クト云フ考デ、相當ニ注意ヲ拂ッテ居リマス

○伊藤廣幾君 只今ノ御答辯ニ就テ更ニ御尋ヲシナケレバナラヌノデアリマスガ、私ノ質問致シマシタノハ、樺太廳ノ附屬ノ原野ハ總面積ニ於テ三百七十

万五千六百七十九町歩ニナツテ居リマス、其中ニ未開地ト云フ者ガ無論アル、其中カラ農耕地ノ面積ハドノ程度ニナツテ居リマス、ソレカラ保安林ハドレ程ノ面積ヲ御持チニナツテ居ルカ、ソレカラ公有林ト私林ト如何程アル豫定デアリマス、ソレカラ材積ニ就テ御尋致シマスガ、此拂下ガ六百万石以下デアルト云フ御話デアリマシタガ、是ハ私モ承知シテ居リマス、併ナガラ御示シニナツタ所ノ拂下ノ豫定石數ト云フ表ガゴザイマス、ソレニ依レバ一億二千萬石ト云フ是ダケノ石數ハ、寧ロ是ハ會社ニ拂下ゲルト此五億萬石カラ一億二千萬石ト云フ材積ヲ除キマスレバ、其殘額ハ三億幾ラニナルト思ヒマスガ、是ハ樺太廳全體ノ面積ニシテ、ソレカラ或ハ保安林ノ材積トカ或ハ未開地ノ材積トカ、或ハ公有林ノ材積ト引去リマスレバ、ドレダケ殘ルカ、之ヲ知リタイ爲メニ內譯ヲ御示シテ願ヒタイト云フタノデアリマス、ソレカラ色々森林ノ薪炭ト云フ事ニ就テモ御話ガゴザイマシタガ、樺太ニハ鑛山ガアルカラ、石炭ノ採掘ヲ獎勵シテ、石炭ヲ以テ住民ノ薪炭用ニ代ヘル、斯ウ云フ御話デアリマシタ、洵ニ是ハ結構ナ事デアリマス、併ナガラ能ク考ヘテ見マス、農業ニ從事スル所ノ農民ガ、石炭ヲ自分ノ毎日ノ御飯ヲ焚キ、或ハ暖ヲ取ル爲メニ石炭ヲ使フト云フコトハ、事實ニ於テ出來ルカドウカ、第一家屋ノ建築カラ變ヘテ行カナケレバナラヌ、農家ニ於キマシテ、其家屋ニ「ストーヴ」ノ設備ヲシテ、石炭ヲ使用スルト云フコトハ、出來ナイコトデアリマス、貧弱ナル農家ニ是ガ出來ルカドウカト云フコトハ、疑ハザルヲ得ヌノデアリマス、御承知ノ通り府縣ニ於ケル所ノ農家モ、今日尙ホ貧弱デアリマスカラ、薪炭ノ無イ者ハ、色々作物ノ殻ヲ焚イテ暖ヲ取ツテ居ル狀態デアル、農家ノ程度ハ略ボ一定シテ居ルヤウデアリマシテハ、何レノ地方ニ參リマシテモ、其住民ノ中デハ最モ貧弱ナ者ト見ナケレバナラヌ、ソレガ家屋ノ建築ヲ改メテ「ストーヴ」ノ設備ヲスルト云フ事ハ、實際ニ於テ行ハレルカドウハ工業用ニ於テ專ラ使用サレルノデアツテ、或ハ又相

當ナ家庭デアリマシタナラバ、石炭ヲ使用スルコトガ出來マスケレドモ、一般ノ農民トシテハ中々容易ナラヌト思ヒマス、樹木ノ必要ト云フコトハ、其點ニ於テ講究サレテ居ルモノト思フ、ソレデ私ハ森林ノ保護ト云フコトハ、何處迄モ大切ナモノト思ヒマス、ソレカラ天然更新ノ外ニ、助成法トシテ人造林ヲ作ルト云フ御計畫デアルト云フコトデアル、ソレハドウ云フ御計畫デアリマス、洵ニ結構ナ事デアリマシテ、天然更新以外ニ、相當ナ植樹法ヲ立テ、ヤラナケレバナラヌコトハ當然デアリマス、サウシテ百年輪伐法ニ依ツテ之ヲ行フト云フ事ハ、極メテ永イ間ノヤウナ御話デゴザイマスナレドモ、ソレハ府縣ニ於ケル所ノ林業ノ計畫デアリマスレバ、或ハ百年以內ニ於テ無論宜カリサウニ思ヒマス、或ハ木曾ノ御料林ニ於テモ、六十年乃至七十年デ更新ガ出來ルト云フコトヲ言ハレテ居リマス、或ハ木曾ノ御料林トカ、或ハ吉野ノ方面ニ於テハ、七八十年ノ天然更新ニ依テ其成績ヲ舉ゲルコトガ出來ヤウト思ヒマスケレドモ、寒地ニ於ケル天然更新ト云フモノハ、未ダ經驗ガ無イ事デアリマス、實際ニ於テ百年ニ於テ果シテ出來ルカ出來ナイカト云フコトハ、餘程考ヘナケレバナラヌコトト思ヒマス、是ハ勿論見解ヲ異ニスルト云フコトハ已ムヲ得マセンガ、一度寒地ニ於ケル山ヲ開發シマシテ、ソレガ元ノ通りニナルト云フコトハ、中々容易ナラヌ事ト思ヒマス、寒地ニ於ケル森林ト云フモノハ、最モ大切ニ保護シナケレバナラヌコト云フコトハ、是カラ生ジタ所ノ事柄ト思ヒマス、兎ニ角森林ニ對シマシテハ、餘程樺太開發ニ於テ影響スル所ガ大ナルモノト思ヒマス、甚ダ重ネ、御尋シテ御氣ノ毒デアリマス、三百七十萬町歩ノ森林ノ分類ヲ尙ホ明細ニ御示シテ願ヒタイト思ヒマス

○永井政府委員 御答致シマスガ、只今ノ表ニ就テノ點ハ、全體ヲ申シマス、斯ウ云フ風ニナリマス、樺太ノ未開地トシテハ四十三萬町歩ヲ取ツテ居リマス、是ハ將來ノ農耕地、或ハ牧場用地、或ハ其他ノ土地トシテ四十三萬町歩取ツテアリマス、其他ハ先刻申シマシタ通り、保安林ニ五十萬町歩、地方備林ガ六十萬

町歩、豫備林が三十万町歩、工業用備林が十萬町歩ト云フヤウナ譯デアリマシテ、ソレ等ノ面積ヲ總テ取ツテ居ルノデアリマス、ソレカラ只今石炭ノ事ニ就テ御話モゴザイマシタガ、是ハ成程農家ノ狀況トシテ「ストーヴ」ヲ焚イテ石炭ヲ用ユルト云フ譯ニ行カヌト云フ御話モゴザイマシタガ、樺太ノヤウナ寒イ所ニ於テハ「ストーヴ」ガナケレバ勤マラナイノデアリマスカラ、或ハ石炭ニ代ヘルコトガ出來ヌ事ハナカラウト思ヒマス、現ニ日本式ノ「ストーヴ」ノミナラズ露國式ノ「ストーヴ」ガアリマシテ、是等ハ最モ石炭ニ適當シヤシナイカト思フ、ソレカラ植民地用トシテ將來不足ヲ告ゲナイダケノ準備ハ致シテ居リマスガ、若シ不足ヲ告ゲルヤウナ場合ガアレバ、石炭ニ代ヘルコトガ出來ヤウト云フコトガ一ツ、今一ツハ高イ所ノ森林ヲ燃料ニスルヨリハ、石炭ヲ燃料ニシタ方ガ得策デアルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、今一ツハ百年輪伐ノ事デアリマスガ、是ハ御尋ノ通り御尤ナ點デゴザイマスガ、要スルニ百年輪伐ト云フコトモ、私ガ行ッテカラ百年輪伐ガ果シテ適當デアるか否ヤト云フコトノ實際ノ經驗ヲシテ譯デナク、詰リ學者並ニ實際家ガ見テ、是ハ百年輪伐ガ適當デアルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマシテ、是ハ歷代ノ當局ガサウ云フ方針ヲ以テヤッテ居ルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマシテ、是ハ今日ノ試驗場ノ調査ノ方法ニ依リマシテモ、百年輪伐ハ確カデアル、七八十年デモ大丈夫行ケヤウト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、ソレカラ一億二千萬石、是ハ表ニゴザイマス通り、最初ノ年ニ於キマシテハ一億二千萬石ニナルノデアリマスガ、詰リ此範圍ニ於テ供給シ得ルコトガ出來ル、而モ其供給シ得ル範圍ハ決シテ濫伐ニ陷ラス、荒廢ニ流レズシテ、十分ニ供給シ得ル程度ヲ示シタノデアリマス

○森山儀文治君 私ハ以前出ナカッタコトモゴザイマスカラ、或ハ重複ニニナルカ知レマセスガ、條文ニ就キマシテ二三起草ノ趣旨ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○清盛太郎君 今ノ樺太ノ續キデアリマスガ、結末ヲ樺太ノ方カラ付ケテシマッテハ——法案ト少シ隔ッ

テ居リマシテ、議事ノ進行ヲ妨害スルヤウデアリマスカラ、極メテ大切ナ事デアリマスカラ、私ハ最後ニ三箇條許リ御尋シタイト思ヒマス、ドウモ樺太ノ森林ニ就テハ、何トナク暗雲ガ掛ッテ居リマス、併シナガラ今當局者諸君ニソシナ事ノアルベキ筈ハナイ、永井長官ノ如キハ私ハ敬慕シテ居ル一人デ、殊ニ御信賴致シテ居リマス、併ナガラ過去ニ於テ、隨分種々ナ點ニ於テ有名ナ方ガ樺太ニ御出ニナッタコトモアルノデアリマスカラ、私ガ疑問ヲ懷クコトモ無理ナ事デハナカラウト思フ、此大切ナ森林ヲ無茶苦茶ニスルヤウナコトニナッテハ、日露戰爭ニ於テ死ンダ人ニ對シテモ申譯ガナイ、是ハ餘程眞面目ナ問題デアリマスカラ、サウ御取リテ願ヒタイ、ソコデ先刻長官カラ前當局者ノ事ニ就キマシテ十分御辯明ヲ承リマシタガ、ソレニ就テ第一承リタイノハ、森林ヲ「バルブ」ニ製造スルガ一番良イト云フ原則ヲ極メタト云フコトデ、此大事ナ原則ヲ極メタ研究ノ時間ハ、何時ニ始マッテ何時ニ終ツタカ、凡ソ何年ニ研究ヲ始メテ、凡ソ何年ニ此研究ガ終リシヤ、極メテ簡單ナ質問デアリマス、ソレカラ先達カラ私要求シテ居リマスガ、拂下會社ト契約シタ時日ガ分リマスカ、何年何月ト何年何月ニ契約シタト云フコトヲ——是ハ今デナクテモ宜イ、成ベク文書デ願ヒタイ、ソレカラ百年輪伐ノ事ノ跡始末、即チ植付ケノ事ニ就テノ御計畫ガアルヤ否ヤ、ソレカラ第四トシテハ此拂下方法ニ關シテ、今ノ長官ハ改革ノ意思アルヤ否ヤ、改革スベキ點アリト御認メニナルカ、今ノ御答ノ中ニモ餘程其意思ガアツタト思ヒマスガ、是ハ極ク一口デ宜イカラ、改革ノ意思アルヤ否ヤ、此ノ儘デ遂行スル御見込デアルヤ否ヤ、成ベク一二ノ質問ニ對シテハ、文書デ御答ヲ願ヒタイト思ヒマス

ニ持合セガアリマセスカラ、調ベテ差上ゲマス、ソレカラ最後ノ御尋ノ人工造林ノ問題、此點ハ只今先刻ノ御尋ニ對シテ御答シタ通り、天然更新ト云フコトノミニ依ッテハ不安心ナ點モアリマスルシ、又天然更新ノ絕對行ケナイ場所モアリマスノデ、此天然更新許リニ依リマセスデ、人工造林ヲ始メタノデアリマス、即チ本年度ヨリ向フ何十箇年ヲ期シマシテ、十六万町歩ノ無立木地ニ對シテ、相當ノ造林ヲ施シタイト考ヘルノデアリマス、ソレカラ天然更新ニ關シテモ唯ダ天然ニ任カシテ行クカト云フト、サウハ行キマセスカラ、相當ノ人工ノ撫育ヲ加ヘタイ、天然更新ヲ助成シテ行キタイト考ヘルノデアリマス、ソレニ相當ノ費用ヲ見込シタノデアリマス、ソレカラ森林ノ拂下ニ就キマシテハ、實ハ只今私ノ考ト致シマシテハ、別ニ拂下方針ヲ變更スル様ナ考ハゴザイマセスガ、又變更スル餘地モ無イノデアリマス、殆ド總テノ面積ニ對シテ契約ヲ締結シテアリマスカラ、殆ド餘地モ無イヤウデアリマスノデ、若シ若干ノ面積ニ對シテ餘地ノゴザイマシタ場合ニハ、相當ノ調査ヲ遂ゲマシテ、適當ニ處分スル考デアリマスガ、要スルニ樺太ノ森林ハ既ニ拂下ニナッテ居ルノデアリマスカラ、改メテ之ニ對シテ相當ノ處置ヲ加ヘルコトモゴザイマセスガ、併ナガラ相當殘地等ガアリマシタ場合ニ於テハ、相當ノ方針ノ下ニ處置シテ行ク積リデアリマス

○伊藤廣幾君 只今ノ御答辯ニ依リマスルト、國有林トシテ將來ニ保存スベキ山林ハ、此樺太廳ニ於テ所有サレテ居ル所ノ三百七十萬町歩ト云フ、此今ノ御答辯ニ色々ナ種類面積ヲ差別スルト云フト、半分以下ニナッテ居リマス、只今ノ御示シニナッテ居ル所ノ總數ハ、約二百萬町歩ノ面積デアル、サウスルト將來此森林トシテ保存スベキ面積ハ、先ヅ二百萬町歩以內デアリマス、百七十萬町歩ト云フ位ニナッテ居リマスガ、其面積ヨリ各製紙會社ニ多量ノ詰リ此材積ヲ拂下ゲルト云フコトハ、是ハ決定シテ居ルコトデアルカラ、已ムヲ得ナイト致シマシテモ、世ノ中ノ進歩ニ伴ヒマシテ、建築用材ト云フモノヲ多大ニ使用ニモナリマセウシ、又「バルブ」ノ材料トシテ賣ルヨ

リハ、普通ノ建築用材トシテ賣ル方ガ、或ハ割合善ク賣レルコトガナイトモシレマセヌ、未ダ開拓ノ半バニ達セズシテ、森林ダケサウ云フヤウニ處分シテシマウト云フコトハ、是ハ極メテ大事ノ問題デアリマシテ、モウ少シ樺太ノ大體ニ於テ拓殖ガ完成シタ後ニ、此森林モ處分ラシテ、相當ニ之ヲ賣拂ツテモ宜シイト云フ、斯ウ云フ時代ガ參リマシタ時分ニハ、何等ノ疑問ヲ生ジマセヌケレドモ、今ヤ僅カナル植民致シマシタ所ノ人口モ少ナイト云フ場合ニ於テ、獨リ森林ダケ將來百年ノ先キニ至ルマデモ達觀シテ、材積ヲ殆ド悉ク賣拂フト云フ御計畫ハ、ドウ云フモデアルカ、斯ウ云フ事ヲ私ハ疑ハザルヲ得ナイ、又是ハ私共ハ信ジマセヌケレドモ、アノヤウニ樺太ノ森林ヲ製紙會社ノ爲メニ賣拂ツテ伐ツテシマツテハ、跡ハ大ナル海ガ現ニ漁業ガ衰ヘテ居ル様ニ、將來ドウナルカト云フ事ハ、有識者ノ間ニ於テモ憂慮スル所デアル、ソレ故ニ私共此席ニ於テノ希望ハ、若シ斯ノ如キ所ノ急激ナル所ノ拂下ハ、中止スル事ガ出來ルナラバ中止シテ戴イテ、サウシテ將來此拓地殖民ノ大計畫ヲ立テ、サウシテ此樺太廳ニ於ケル所ノ拓殖ノ場合ニ於テハ、幾町村——詰リ行政ノ上カラ觀察シテ、幾何程ノ村ヲ組織シテ之ヲ爲スガ相當デアラウト云フ事ニ至ルマデ、初メカラ計畫ヲ立テ、參ルコトヲ希望スルノデアリマス、唯ダ國ノ僅カナル歳入ヲ得シガ爲メニ、斯ノ如キ所ノ重要ナルモノヲ今日ヨリ處分シテシマウト云フコトハ、洵ニ惜シキ次第デハナカラウカ、又將來達見ノ及バザル所ニ大害ヲ貽スデハナイカト考ヘルノデ、實ハ斯ノ如ク申スハ失禮ニ當ルガ、兎ニ角私共ガ國家ノ上カラ見テ樺太ト云フモノハ最モ注意シテ開拓ニ從事シナケレバナラヌト云フ觀念ガアリマス、故ニ聊カ此希望ヲ述ベテ此森林ニ對シテハ一層ノ御注意ヲ煩ハサレンコトヲ望ミマス

○永井政府委員 伊藤君ノ御質問ニ對シテ御答シマス、御尤ナル御説デ、御説ノ趣旨ハ將來服膺致シテ、十分注意シタイト思ヒマス、唯ダ一言申上ゲテ置キタイノハ、既ニ前當局ニ於テ是ガ至當ナリト認メテヤッタノデアリマシテ、其點ニ付テ非難モアルヤウ

デアリマスガ、其時ノ當局ノ考ハ、是ガ樺太開發上最モ適當ナリト信ジマシテ、總テノ計畫——人口ガドノ位ニ殖エテ、其森林面積ハ幾ラ、未開地ハ幾ラト云フ様ナ相當ナ計畫ヲ以テキツタノデ、決シテ無計畫、無策ニヤツタノデハナイト云フ事ヲ、茲ニ前當局ノ爲メニ申上ゲテ置キマス、ソレデアリマスカラ此點ニ付キマシテハ、少シ逆ニハナツテ居リマスケレドモ、施業法案ト云フモノヲ拵ツテ居リマスカラ、之ニ基キマシテ十分ナル研究調査ヲ遂ゲテ見タイト考ヘテ居リマス、是ハ伊藤君ノ御話ノ如ク、森林ノ施業法案ナリモノヲ立テマシテ、ソレニ基イテ相當ノ計畫ヲ立テルノガ至當ダラウト考ヘマシテ、此森林ノ利用ニ付キマシテノ計畫ヲ立テル爲メニ、多少逆ニハナリマシタケレドモ、今一二年經チマス、此施業法案ノ調査ガ完了致シマスカラ、之ニ基イテ十分ノ考慮ヲ費シタイト考ヘテ居リマス、尙ホ二十箇年ノ契約ニ依ツテ致シテ居リマシテ、モウ大分經過シテ居ルノデアリマスガ、實ハ二十箇年ノ契約ノ經過後ニ於ケル處分ニ付テモ、今ノ内ニ於テ相當考ヘタイト思ヒマス、既ニ契約ガ出來テ居ル所ハ仕方ガアリマセヌガ、今後ノ施業案ガ確立致シマシタ上ハ、契約期限等ニ付テモ更ニ適切ナル方法ヲ編ミ出シタイト考ヘマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、暫ク此施業案ノ出來マス迄諸般ノ事ヲ御待ヲ願ヒタイト思ヒマス

○澤來太郎君 私ハ質問ヲ打切ツテ、如何様ナ事ガアツテモ質問シナイト云フ事ヲ宣言致シテ置キマシタガ、只今ノ御答辯ニ接シマシテ、打切後ノ號外ノ質問ヲ致シタイト思ヒマス、政府委員ノ御答辯カラ考ヘマス、樺太廳ノ特別ノ保護ヲ受ケテ、特別ノ利益ヲ蒙ツテ居ル處ノ現在ノ各會社ナルモノハ、何レモ當局ノ切實ナル勸告ヨリ、已ムヲ得ズシテ營利ヲ度外ニ措キ、樺太拓殖上、半バ義侠心ヲ以テ事ニ當ツタト云フ様ニ承リマシタガ、果シテサウデアルトスレバ、吾ハ多大ノ敬意ヲ拂ハザルヲ得ヌノデアリマス、併ナガラサウダナク解釋スルト、敬意ドロカ寧ロ其意外ナルニ驚カザルヲ得ナイノデアリマス、如何ニモ樺太占領當時ノ事情カラ考ヘテ見ルト、當時ノ當局者タル平岡定太郎君ハ、熱心ニ各方面ノ實業家ヲ

御説キニナラレタニ相違ナイト思ヒマス、併シ其當時今日トハ、日尙ホ淺キニ拘ラズ、實ニ隔世ノ感ガアルト言ウテモ過言デナイ程開發サレテ居ルト云フ事デアリマス、既ニ私ノ友人デ樺太ヲ直接觀察シテ來テ吾ニ其物語ヲサレタ所ヲ以テシマシテモ、隔世ノ感ガアル程樺太ハ開發サレテ居ルト云フ事ヲ聞イテ居リマス、最初ハ利益ガ有ルカ無イカ疑フ人ガ多ク、事業ニ著手スル人ガ無カッタノデアリマセウ、併シナガラ折角當局ノ御斡旋ニ依リマシテ、現在ノ如キ有力ナル所謂資產階級ノ會社ト云フモノガ多ク起ツタノデアリマスガ、此場合ニ於キマシテハ、何所迄モ此富豪階級ヲ以テ組織サレテ居ル現在ノ營利會社ニノミ獨占ノ權利ヲ與ヘテ、永久ノ之ヲ擁護シテ行クト云フ一點張デ、是以外ノ之ニ次グ者若クハ之ニ次イデ資本ノ稍々劣ツテ居ル者ガ、如何ニ事業ヲ起サウトシテモ、既ニ先ノ會社ガ獨占的ニ契約ヲシテ居ルカラ、オ前方ニハ氣ノ毒ダガ許ス事ハ出來ヌト云フ、所謂門戶閉鎖ノ主義ヲ執ツテ居ラレト云フ事ハ、甚ダ時勢ニ順應セザル御方針ト見ルヨリ外ハナイデノアリマス、最初利益ガ有ルカ無イカ分ラヌト云フ暗中摸索ノ場合ニ於キマシテハ、當局ノ勸誘ニ依ツテヤラセテモ宜シイガ、其當時ヨリ當局ノ熱心ニ勸誘ニ應ジ、樺太ニ事業ヲ起シテ、是ダケノ利益ガアルト云フコトヲ現在ノ各會社ノ營業狀態ニ於テ立證シテ居ル以上ハ、更ニ利益ガアリヤ否ヤ疑フ者ハナイト思フ、當局ノ勸誘ヲ待タズシテ事業ヲ營マウト云フ者ガ多クアルノデアリマスガ、如何セン會社ハ或ル因縁トハ申シマセヌ、樺太廳ト惡因縁ヲ有シテ居ル會社トハ申シマセヌガ、何トナク惡因縁ヲ有シテ居ル如クニモ見様ニ依ツテハ見エル現在ノ諸團體ニ對シテ、獨占權ヲ與ヘテ居ルト云フコトハ、將來樺太ノ開發上、由々シキ關係ヲ有シテ居ルモノト思フ、就キマシテハ現在ヨリ今後ニ於テ、當局ハ現在ノ富豪階級ノ會社ニノミ獨占サセルト云フコトヲ加減ヲシテ、成ベク中產階級若クハ資本ノ小ナル企業家ニ對シテ、此利益ヲ分ツト云フ御方針ヲ御執リニナツタヲ宜カラウト思フ、斯様ナ意味ニ於テ從來惡因縁ヲ有シテ居ルカノ如ク見エル諸會社ノミニ獨占サセ

ルト云フ考ヲ持ッテ居ラル、デアリマセウガ、此點ヲ伺ヒマス

○永井政府委員 御答致シマス、或ル有産階級ノ人ガ獨占シテ居ルト云フ御話デアリマスガ、其當時已ムヲ得ズ斯ノ如キ狀況ニ至ッテデアリマス、今後ニ於テモ契約ノ期間中ハ如何トモ出來ナイノデアリマスガ、契約以外ノ場所ニ付テハ、御話ノコトヲ斟酌致シマシテ、適當ニ致ス方法ヲ執リタイト思ヒマス

○委員長(清水市太郎君) 森林ダケデスカ

○永井政府委員 森林、漁業其他皆ナデス

○竹上藤次郎君 近頃ノ新聞ニハ、滿鐵ノ事ニ付テ寫真ナド入レテ、面白カラス噂ヲ載セテ居リマス、樺太ニ付テハマダ新聞ニ何モ出ナイノハ結構デアリマスガ、森林賣下ニ付テ變テ噂ヲ聞クノデアリマス、吾等與黨ニ居リマス者ハ、サウ云フ噂ヲ聞ク毎ニドキドキシテ居リマス、サウ云フ場合ニハ當局者ハ辯明ヲシテ、其噂ヲ取消シテ貰ヒタイト思フノデスガ、一體契約ハ何年間位ニナッテ居リマスカ

○永井政府委員 此契約ハ前任者ガヤリマシタノデ、二十箇年ノ約束ヲ以テ伐採ヲ許シテアリマス

○竹上藤次郎君 價格ハ年々極メマスカ

○永井政府委員 此點モ價格ハ最初ニ申シマシタ通り、最初ニ「バル」製造ヲヤルトキハ、北海道ノ時價ノ半額ヲ以テヤルト云フ約束デアリマシタクレドモ其約束ハ樺太ノ財政モ困難デアリマシタクレドモ起リマシタカラ、今日ハ値上ヲシテ、島内デ消費スルモノハ四十錢、島外ニ出スモノハ五十五錢トシテ居リマス、ソレカラ風評云々ノ御話ハアリマシタガ、私ハ聞イテ居リマセス、又辯明スル事ハ何モ無カラウト思ヒマス

○竹上藤次郎君 私ハ「バル」ガ北海道ノ時價ノ半額デアルト云フコトハ、安イト云フ考ヲ持ッテ居リマス、ソレカラ買受人ニ對シテハ數量ヲ少クシテモ宜シイノデスカ

○永井政府委員 或ル數量ハ賣ル約束ヲシテ居リマスカラ、減少シテ遺ルコトハ出來ナイト思ヒマスガ、唯ダ契約ノ中、公益上必要ナル若干ノ項目ニ該當スルモノハ全部削除スルコトガ出來ルト考ヘテ居リマス

○森山儀文治君 法案ノ第七條ニ於キマシテ、雜種財産ノ中、土地ト建物以外ノ土地ノ定著物ニ限ッテ、交換ノ目的物ト爲ス事ガ出來ルトナッテ居リマスガ、建物ヲ除外シタルハドウ云フ譯デアリマスカ、ソレカラ此交換ノ主體ハ、帝室用又ハ國、公共團體、若ハ私人ニ於テ公共用、公用若ハ公益事業ニ供スル爲メ必要アルトキハ、交換ガ出來ルトナッテ居リマスガ、國デアリマス外ハ宜シイガ、雜種財産ハ國有財産デアリマスカラ、國ガ自己ノ土地若ハ建物以外ノ定著物ニ付テ、一方ハ交換スル人ニナリ、他ノ一方ハ交換サレル人ニナル事ハ、奇妙デナイカト思ヒマスガ、是ハドウ云フ譯デアリマスカ、次ハ第十二條ニ付テデマ、第十二條ノ第一項ニ依リマスルト、住所居所共ニ不明ノトキハ、公告ヲスルトナッテ居リマス、不明ト云フ事ハ、査定官廳ノ主觀的觀察ニ依テ極メルノデアルカ、或ハ一般ノ客觀的觀察ニ依ッテ極メルノデアリカ、若シ主觀的觀察ニ依ッテ極メマシタ場合ニ、事實上居所住所不明者ガ隣地所有者デアッタ場合ニ、此公告ハ無効ニナル意味デナカラウカ、隨分公告ノ爲メニ迷惑ヲスル人ガアリマスカラ、其場合ニ無効ニナルノデアリマスカ、今一ツハ隣地所有者ニ少シモ懈怠ノナイ場合ニ於テハ、第二項ノ三十日ヲ經過シタ後ト雖モ、原狀回復ガ出來ルノデアリカ、或ハソレモ出來ナイデ、懈怠ガナクトモ失權セシムル趣意デアリマスカ、ソレカラ第十五條ト二十三條デアリマス、十五條ニ依ルト、植樹ヲ目的トシテ定著物ヲ貸付ケタル場合ハドウ云フ事ニナルカ、ソコデ此植樹ヲ目的トシテ貸シマシタ場合ニ、要スルニ私ノ聽キタイノハ解除期間ノ事デアリマス、植樹ヲ目的トシテ土地及建物以外ノ定著物ヲ貸付ケタル場合、或ハ其他ノ物件ニ就テモ使用ヲ目的トシテ貸付ケマシタ場合ニ於テ、借受人ガ其目的通りニ使用致シマセヌ時分ニハ、解除ヲナサルト云フ立法ノ趣旨デアリカ、サウ云フ場合ニ於テモ解除シナイト云フ趣旨デアリカ、若シサウ云フ場合ニ解除スルト云フ御趣旨デアルト致シマスレバ、第二十二條等ノ如キ、解除ニ就テ色色ナ規定ガ書イテアリマス、此十五條ノ貸付ニ就テ

解除ノ規定ヲ御置キニオラナイノハ、ドウ云フ考デアリマスカ、入レナイデモ宜シイト云フ御考デアリマスカ、ソレカラ第二十三條ニ就テモ矢張同一デアリマシテ、是ハ豫定期間内ニ成功シナイ時ハ、成功シタ分ダケヲ賣拂、讓與、貸付ヲナスコトガ出來ルト云フコトニナッテ居リマス、此豫定期間内ニ成功シナイ時分ニハ、解除スルコトガ出來ナイカ、第二十二條ニ依リマスルト、豫定期間内ニ事業ニ著手シナイ時ニハ、解除スルト云フコトニナッテ居リマス豫定期間内ニ事業ノ成功ヲシナイ場合ハ解除スルカドウカ、隨分借リテ置イテカラ、横著ナ人モアリマスカラ、若シ解除シナイト云フナラバ、果シテ其當ヲ得ナイモノト思ヒマス、解除スルト云フコトニナレバ、是ハ法文ニ記載シナケレバナラナイト思ヒマス、ソレカラ今一ツ第二十四條、第二十四條ニハ從前ヨリ引續イテ寺院又ハ佛堂ニ關スルコトヲ規定シテアリマス、是ハ寺院ト佛堂ニ限ッテ、神社ト云フモノハ之ニ關係ノナイ譯デアリマス、若シ神社ガアルトスレバ、御入レニナラヌノハドウ云フ譯カ、是ダケヲ伺ヒタイノデアリマス

○河本政府委員 只今ノ御質問ニ御答致シマス、第一、此第七條ノ所ニ建物ヲ除外シタルハドウ云フ意味デアリカ、元來此交換ト云フ事柄ハ、國有財産一般ニ通ジマシテ、此交換ト云フ事柄ハ、歲入歳出ヲ混同スルト云フ結果ニナリマスノデ、出來ル限リ此範圍ヲ縮少シナケレバナラスコトハ、是ハ當然ノ事デゴザイマスガ、ソレニ就キマシテハ實際ノ必要上、是非交換ト云フコトヲシナケレバナラヌ必要ガ頻々トシテアルノデアリマシテ、之ハ從來ノ官有財産ノ規則等ニ就テモ、土地ダケニ就テハ、交換ヲ認メテ居ッタノデアリマスガ、建物ニ就テハ交換ヲ認メテ居ラナカッタノデアリマス、其理由ヲ申シマスルト、建物ノ如キハ人爲デ以テ幾ラデモ新シク建テルコトガ出來ル、隨テサウ云フ例モ實際ニアッタ事モアリマセヌケレドモ、或ハ向フニ建物ヲ立テ、置イテ、此方ノ土地ト交換スル、サウシテ豫算ヲ取ラズシテ交換スルアリマス、ソレカラ國ガ公共用若クハ公益事業ニ必

要ガアル場合ニハ、國有地ヲ交換スルト云フコトハ、寧ロ良イ事デゴザイマスガ、是ハ交換デゴザイマスノデ、此方ノ國有地ノ方ヲ公共用、公用、公益用ニ必要アル場合ト、ソレカラ交換ト對象ナル所ノ公共團體私人等ノ土地ヲ、國ガ公共用、公用、公益用ニ必要ガアリマスノデ、互ニ必要ガアル場合ガアリマスカラシテ、茲ニ國ト云フ字ヲ公共團體私人ト合セテ入レタ譯デゴザイマス、ソレカラ此境界査定ノ所デアリマスガ、此通知ヲ受クベキ者ノ居所住所共ニ不明ナル時ト申シマスノハ、國ガ十分ニ調査シタ結果、客觀的ニ不明デアッタ場合ト考ヘテ居ル次第デアリマス、此場合ニ於テ此際隣接所有者ニ怠慢ガナカッタ場合ハドウカト云フ事デゴザイマシタガ、別ニ住所所ガ不明ト云フコトハ、當事者ノ怠慢ガアルト云フ事ハ無イト考ヘマスノデ、十分ニ調査シタ結果、隣接地ノ所有者ガ不明ナル時ハ公告ヲシテ、之ヲ以テ通知ニ代ヘルト云フコトハ、是ハ實際上必要已ムヲ得ヌ事デアラウト考ヘテ居ル次第デアリマス、ソレカラ第十五條ノ貸付ヲナシタ場合ニ於キマシテ、解除ヲスルト云フコトヲ置カヌノハドウ云フ譯カト云フコトデアリマス、此解除ニ就テハ、一般ノ民法ニ規定ガアリマシテ、民法ニ制定シテアル所ノ事項ガ起ツタ場合ニ解除スルト云フコトハ、是ハ國有デアアルカラト言フ特別ノ規定ヲ作ル必要ハ無イト云フ事ニ考ヘマシタ、此點ニ就キマシテ特ニ此法律ニ規定ヲ設ケナカッタ次第デアリマス、ソレデ民法規定ノ理由ガアリマシタ場合、其契約ノ解除ノ事由ヲ定メマシタ場合ニ、之ニ該當スル場合ニハ、政府ハ解除スルノデゴザイマス、ソレカラ二十三條ノ場合ニ解除ト云フコトヲ認メマセヌノハドウ云フ譯カト云フコトデアリマスガ、此二十三條ノ場合ニハ、豫定期間内ニ成功セヌ場合ニ於テハ、元來ハ豫約ノ效力ヲ失フト云フコトハ當然ノ事デゴザイマス、元來ナラバ事業成功セザル場合ニハ、豫約ノ效力ヲ失フカラ、其人ニ對シテ貸付ヲ爲ス必要ハ無イトデゴザイマスガ、併ナガラ其成功シタ部分ハ賣拂ヲナシテ差支ナイ考デゴザイマスカラ、效力ヲ失フ場合デモ、貸付ケテモ宜イト云フコトヲ規定シタノデアリマス、ソレカラ

第二十四條ノ規定カラ神社ヲ除キマシタノハ、第五條ノ二項ニアリマシヤウニ、神社ノ有シテ居ル私有財産ト云フモノハ、國ガ公用ニ供シテ居ル財産ト同ジク、國ノ用ニ供スルモノト同様ニ見テ、之ヲ公用財産ト致シマシタノデアリマス

（委員長清水市太郎君委員長席ヲ退キ、理事竹上藤次郎君委員長席ニ著ク）

○河本政府委員續）隨ツテ其間ノ效力關係ハ、此二項ニ依リマシテ明カニナル譯デゴザイマスカラ、特ニ之ニ對シテ貸付ヲ爲ストカ云フ風ニスルコトハ出來マセヌノデ、唯ダ法文ハ佛堂ノ用ニ供シテ居ル所ノ國有財産ノ性質ニ含メテゴザイマスカラ、之ニ就テ貸付ケタル規定ヲ置イタ次第デゴザイマス

○森山儀文治君 判リマシタガ、此十五條ガ民法ノ解除規定ヲ適用スルカラ要ラナイト云フコトハ、此二十二條ハ無意味デアリマス、是モ矢張期間ヲ規定シテ、事業ニ著手ヲ命ズベキコトヲ規定シテ、貸付若クハ讓渡シタ場合ニソレヲシナイ時カラ、矢張直ニ民法ノ規定ノ適用ガ出來ル筈デアリマス、必ズ二十二條ノヤウナ斯ウ云フ特別ノ規定ハ要ラナイノデハナカラウカト思ヒマス、此點ニ付テハ二十二條ノ規定ヲ設ケ外ニ付テハ御設ケニナラナイノハドウ譯デアリマスカ

○河本政府委員 誠ニ御尤ナ御質問ト思ヒマスガ、併シ第二十條ニ書キマシタ事柄ハ、從來往々ニシテ指定期間内ニ事業ニ著手セズシテ、唯ダ權利ダケヲ得テ置イテ著手セヌ者ガ多クアリマシタ、是ハ甚ダ弊害ト考ヘラレテ居ッタノデアリマスカラ、此事項ダケニ就テハ、特ニ宣言ノニ法律ニ於テ規定シテ、此事業ニ著手スル見込ガナケレバ、願出ヲ爲スベキモノデナイト云フコトヲ特ニ此處ニ注意的ニ書イタ次第デゴザイマス

○上島益三郎君 私モ二三ニ就テ伺ヒタイト思ヒマスガ、先ヅ第三十二條ニ就テ伺ヒマス、第三十二條ニハ「從前ノ法令ニ依リテ爲シタル處分、契約其ノ他ノ行為ハ本法中之ニ相當スル規定アル場合ニ於テハ本法ニ依リテ之ヲ爲シタルモノト看做ス」此法律ノ制定ハ洵ニ結構ナ話デアリマス、併ナガラ今日制定ス

ル所ノ法律ヲ以テ、從前既ニ爲シタル所ノ契約其他ノ行為ヲ一概ニ其效力ヲ制限變更スルト云フ事ハ、是ハ人ノ既得權ニ影響ヲ及ボス重大ナル問題デアルト考ヘテ居リマス、固ヨリ此既得權ヲ害スルコトガ出來ナイト云フコトハ、絶對的ノ立法上ノ原則デアリマセヌケレドモ、併シ斯ル既得權ヲ侵害スルト云フコトハ、國家ガ万已ムヲ得ザル場合ニ非ザレバ決シテ爲ス可ラザル事、而モ之ヲ爲ス場合ニ於テハ、何分ノ補償ヲシナケレバナラヌト云フ事ハ、是ハ最モ明白ナル原則デアリマス、既得權ヲ輕々シク處分スルト云フコトハ、是ハ最モ危險ナル革命的ノ思想デアリマス、シテ見ルト私ハ三十一條ノ規定ニ依ッテ是迄既ニ爲シタル所ノ處分又ハ契約ニ依ッテ、第三者ガ既ニ有シタ既得權ヲ果シテ侵害スルヤウナ虞ガアルマイカト云フコトヲ大變憂慮スルデアリマス、サウ云フ點ニ付テハ果シテ、立案者ハ十二分ニ御研究ヲ遂ゲラレタカドウカラ第一ニ伺ヒマス、其一例ヲ舉ゲマスルト吾々ノ狹イ知識ノ範圍内デ記憶シテ居ル所ニ依リマシテモ、之ガ爲メニ著シク權利ヲ縮少サレルト云フノハ、所謂大繩權、是ハ御承知ノ通り舊幕時代ニ冥加金ト云フ一定ノ代金ヲ納メテ、海面ノ淺瀬埋立ノ權利ヲ得テ居ル、幕府ノ時代デ幕府ノ領地ニ於テハ、此大繩權ト云フモノヲ私人ニ附與シテ居ッテ、吾々ノ選出區タル大阪附近ニ於テハ、此大繩權ト云フモノガ裁判所ノ問題トナツテ居ル、ソレデ本日一寸法令ヲ調べテ見タ所ニ依リマス、明治五年ノ大藏省達第百二十六號ノ地券渡方規則第二十七條ニ斯ウ云フコトガアル（堤外寄洲又ハ流作場等不特定地ノ類大繩場ニ相成居持主無之地所ハ入札拂ニ致シ持主相定メ可申若シ持主難相定分ハ拜借地ノ積可相心得事）ソレカラ明治六年太政官第二百七十二號布告地租改正施行規則第八則第九則ノ第八則ニハ「海川ノ附洲湖水縁等ノ不特定地或ハ試作ノ地所等反別確定無之分ハ何不定地凡反別何程ト相記シ地價相定メ規則ノ通り收稅可致事」第九則ニハ「總テ舊來大繩受ノ地所ハ現步調査ノ上地價相定メ規則ノ通り收稅可致事但シ舊來大繩受ノ地所ト雖モ不特定地ノ分ハ第八則ノ通タルヘキ事」斯ウ云フ規則ガアル、大繩地

ト云フモノハ太政官ノ布告並ニ大藏省ノ達ニ依ッテ
チャント權利ガ認メラレテ居ル、是ハ明治九年地租
改正ノ時ニハ假地券ト云フモノヲ大阪府ノ管内ニ於
テハ現ニ發行シテ渡シテ居ル、所ガ其後假地券ヲ渡
シタガ、大藏權ニ對シテハ埋立ヲ完了セザル部分
——此水面地デアリマス、水面ニ對シテ地券ヲ渡シ
土地トシテ取扱フト云フコトハ不穩デアルト云フ
デ、其假地券ヲ取消シテ、更ニ後日埋立ガ完了シタ後
ニ、本地券ヲ渡シテ、土地臺帳ニ登錄スルト云フコト
ノ管轄官廳ノ達ニ依ッテ、地券ト云フモノヲ——本地
券ト云フモノヲ渡サナイト云フコトニ取扱ガ一定
シタノデアリマス、併シ是ハ既ニ幕府時代ニ於テ一
定ノ冥加金ヲ納メテ、永遠ニ之ヲ埋立テル所ノ權利
ヲ與ヘテ居ルノデアツテ、而モ明治初年ニ於テ太政官
ノ布告、大藏省ノ達ニ於テ、其權利ガ確定シテ居ル
デアリマス、之ヲ官有地埋立規則ニ依ッテ維新後ニ於
テ新タニ埋立ヲ許可シテ、サウシテ何時デモ取消ガ
出來ル場合ト同視スルコトガ出來ナイト云フコト
ハ、私ハ此法律ノ沿革ニ徴シテ甚ダ明カデアルト思
ヒマス、現ニ大藏權ト云フモノヲ認メテ、政府ガ大阪
市ノ築港ヲ特許スル場合ニ、數十萬ノ金ヲ拂ッテ大藏
地ト云フモノヲ買収シタ實例モアリマス、裁判所デ
大藏權ノ性質ニ付テ判決シタ實際上ノ判例モアリ
マス、矢張官有地管理規則ニ依ッテ同一ニ取扱ヲ致シ
テ居リマスルガ、大藏地ニ依ル所ノ者ハ、矢張權利ノ
性質ヲ存置シテ、主務官廳ニ於テモ引續キ大藏權ト
云フモノ、實質ヲ保存セシメテ居ル、吾々ハ左様ニ
記憶シテ居ル、ソレハ只一例ニ過ギマセケレドモ
兎ニ角從來ノ法令ニ依ッテ爲シタル處分契約ニ依ッ
テ、第三者ガ既得權ヲ持ッテ居ル、是ガ法律ニ極メテ
アル以上ノ範圍ニ強イ權利ヲ持ッテ居ルト云フ事ハ、
ドウシテモ改善シナケレバナラス、此以上ノ權利ハ
絕對ニ無イト云フコトハ、立法者トシテハドウシテ
モ言ヘナイ、勿論是ヨリ以上ニ強イ權利ガアツタ場合
ニ於テ、此法律ノ爲メニ其權利ハ剝奪スルト云フ事
ニナル、即既得權ヲ故ナクシテ侵害スルトカ、故アリ
ト雖モ賠償金ヲ附與セズシテ、補償セズシテ侵害ス
ルト云フコトニナルノデアリマスカラ、私共ノ考デ

ハ、ドウシテモ此以前ノ契約其他ノ行爲ハ、本法ニ依
リテ爲シタルモノト認ムト云フコトハ、既得權ヲ害
シナイト云フ所ノ制限ヲ附スルノ必要アリト思ヒマ
ス、是迄ノ官有地取扱規則、或ハ官有財産管理規則
ト云フモノハ法律デナイ、人ノ既得權ヲ奪フコトガ
出來ナイカラ是デ宜イ、今日新ニ之ヲ法律トシテ發
布スル以上ハ、其當不當ヲ問ハズ人ノ權利ヲ與奪ス
ルコトガ出來ルカ、立法者トシテソレダケノ注意ハ
ドウシテモシナケレバナラス事ト考ヘマスガ、左様
ナ點ニ對スル當局ノ御意見ハ如何デアルカ、先ヅ之
ヲ御伺ヒシマス

○河本政府委員 只今ノ御話ノヤウナ權利ガアルト
云フコトハ、能ク承知シテ居リマセナシタノデアリ
マスガ、併ナガラ此ニ書イテアリマス所ハ、本法中
ニ相當スル場合ニ於テハト云フコトデアリマシテ、
此中ニ書イテアル事柄ト同ジヤウナ處分契約、其他
ノ行爲ト云フ趣旨デゴザイマスカラシテ、只今ノ御
話ノヤウナ事柄ハ、之ニ依ッテ其權利ガ剝奪サレルモ
トハ考ヘテ居ラナイ次第デゴザイマス

○上島益三郎君 若シサウ云フモノガアツタラドウ
スル、本法ニ規定シテアル部分デ、サウシテ此本法
規定シテアル範圍以上ノ權利ヲ許スモノガアツタ場
合ニ於テハ、是マデノ千差萬別ノ無數ノ計ルベカラ
ザル總テノ處分、總テノ契約ナルモノハ、万一本法ニ
該當スルモノガアツタ場合ハ如何ニシマスカ

○河本政府委員 此條文ノ趣旨ハ、例ヘバ此ニ在リ
マスル境界査定デアルトカ、或ハ貸付デアルトカ云
フ事柄ニ關シテ、從來モサウ云フ事ガ規定シテアリ
マシタ爲メニ、ソレニ依ッテ處分シ契約ヲ——ソレ
ノ行爲ハ爰ニ本法ガ施行ニナリマス云フト、前ノ
ソレヲノ法令ハ其效力ヲ失フ事ニナリマス、所ガサ
ウシマス云フト、或ハ訴願——訴訟權ヲ持ッテ居ル
者ニ、何カ其前ノ法律ガ消エタ爲メニ、其權利ヲ失フ
ト云フ云フヤウナ結果ニナリマス關係上、此過渡期
關係ヲ圓滑ナラシムル爲メニ、斯ウ云フ規定ヲ置イ
タノデアリマスケレドモ、決シテ今御話ノヤウナ從
來既得權ヲ得テ居ルモノヲ、之ニ依ッテ剝奪スルト云
フ趣旨ハ少シモ無イノデゴザイマス、色々ノ此本法

ニ書イテアリマスル所ノ規定、是ト同一ノ——類似
シタ所ノ處分契約其他ノ行爲ニ就テハ、相當ニ——
行爲ニ關スル規定ニ就キマシテハ、相當ニ調ベマシ
タケレドモ、別ニ支障ナイト考ヘタ次第デゴザイ
マス

○上島益三郎君 ソレデハ此既得權ヲ害シナイト云
フ趣旨ハ、政府ニ於テモ御同意ナシマス、即チ見解
ハ同ジデスナ、吾々ト……

○河本政府委員 其通りデゴザイマス、既得權ヲ別
ニ之ニ依ッテ奪フト云フ考デハゴザイマセヌ

○上島益三郎君 ソレデ其次ノ點ヲ——今ノ點ハ尙
ホ他ノ機會ニ——唯ダ文字ヲ附加シタイト思ヒマス
ガ、意見ハ同ジコトデアルカラ、其次ノ事ヲ伺ヒマ
ス、第十九條——第十九條ノ「貸付期間ノ終了又ハ貸
付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其國有
財産ノ上ニ存スル建物其他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通
知シタル時ハ其所有者ハ相當ノ理由ナクシテ之ヲ拒
ム事ヲ得ス」斯ウ云フヤウナ規定ガアリマス、是ハ一
例デアリマスガ、一體此物ノ貸付トカ、賣拂トカ、其
他ノ政府ノ民法上ノ行爲ト云フモノハ、權力關係デ
ハナクシテ、對等關係デアアル、一個人ト對等シテ、同
ジ資格ニ於テ、同ジ法律ノ威力ニ於テ、此契約ト云フ
モノハ同ジ事デアリマスカラシテ、斯カル對等關係
ニ於テ行ハル、所ノ法律行爲ト云フモノハ、成ベク
吾々ハ此權力關係ニ紛ラハシイ所ノ思想ト規定トヲ
取去ッテシマイタイト思フ、政府ガ物ヲ貸スノモ、一
個人ガ物ヲ貸スノモ同ジ事デアリマスカラ、サウ云
フ場合ニ國ガ物ヲ貸スノダカラト云ウテ、故無クシ
テ、サシタル必要カナイノニ、何トナク貸方ノ方ガ偉
イヤウニ規定ヲ設クルト云フ事ハ、因襲的官僚的思
想デアアル、斯ウ云フ對等關係ノモノハ、一個人ト國家
ト對等ノモノトシテ、平等ナル規定ノ下ニ行動スル
ノガ當然デアリマス、其一例トシテ私ハ只今第十九
條ヲ舉ゲタノデアリマス、是ハ貸付期間ノ終了ノ途
中デ、政府ノ御都合デ何時デモ其貸付契約ノ解除ガ
出來ルト云フ規定ニナツテ居ルノデアリマスガ、此終
了又ハ解除ニ依ッテ、政府ガ建物ヲ買フト云フ場合ニ
於テモ、拒ムコトガ出來ナイト云フニナツテ居ル、是

ハ又何カノ必要ガアツテ、貴様ノ建物ヲ買フト云フカ
ラシテ、是ハ賣ラナケレバナラヌト云フ規定ヲ設ケ
ルノモ宜イデアリマセウ、併ナガラ一面カラ考ヘル
ト云フト、永久或ハ初カラ特定シタル期間建物ヲ存
在セシムル積リデ、立派ナ家屋ヲ建築シタ人間ガ、忽
ニシテ政府ノ御都合デ契約ヲ解除セラレテ、建物ヲ
持ッテ行カレナケレバナラヌト云フコトハ、是非常
ナ迷惑ナ話デアアル、サウ云フヤウナ場合ニハ、例ヘバ
損害ノ賠償ヲ受ケテモ、持ッテ行ク地所ガナケレバ、
事實持ッテ行ケナイノデアアルカラシテ、斯ウ云フ場合
ハ矢張民法上ノ對等ノ觀念ニ依テ、政府ガ進ンデ建
物ヲ買取ルト云フ所ノ權利ガアルノミナラズ、是ト
平等ナル關係ニ於テ、相手方モ政府ニ建物ヲ買収シ
テ吳レト云フコトヲ請求スル權利ヲ私ハ與ヘナケ
レバナラヌト思ヒマス、例ヘバ此司法省カラ提出ニ
ナツテ居ル所ノ借地法案ハドウシテアルカ、借地法案
ハ、第三者ガ建物ヲ買ツテ、サウシテ土地ノ所有者ガ
引續イテ借スコトヲ承諾シナカッタ場合ニハ、土地ノ
所有者ニ建物ヲ買ウテ吳レト云フ請求ガ出來ルト云
フコトノ規定ニナツテ居ルノデアリマスカラ、此規定
ノ精神カラ推セバデス、ソレヨリハ尙ホ此本條ノ場
合ニ於ケル建物ノ所有者ト云フ者ガ、過失モ何モナ
ク、初カラ期間モ極メテ家ヲ建築シタ者ガ、政府ノ御
都合デ途中デ解除ニナルノデアリマスカラ、斯ウ云
フ場合ニハ、矢張對等ノ觀念ヲ持ッテ相手方ヲ遇スル
ト云フ事ガ必要デアラウト思ヒマス、是ハ單リ斯
ウ云フ場合ノミナラズ、例ヘバ此第十條ノ「國有財産
ニ付境界査定ヲ施行セムトスル時ハ豫メ期日ヲ定メ
テ隣接地所有者ニ之ヲ通知シ其ノ立會ヲ求ム、シ」
政府ノ御都合デ勝手ニ境界調査ヲ施行スル場合ニハ
立會ハナケレバナラヌ、然ルニ立會シナカッタ場合ニ
ハ、勝手ニ境界ヲ調べ、爰ニ忽チ效力ガ發生スルノデ
アリマス、隣地所有者ノ請求ニ依テ境界査定ヲスル
ト云フ事ハ、是ハ一寸モ設ケテナイノミナラズ、此隣
地所有者ト云フ者モ、例ヘバ山林島嶼ノ如キ者ハ、境
界ガナク、家建物モナク、人モ住ンデ居ラナイ、或ハ
五十里百里ノ遠方ニ居ルカモ知レヌ、政府ノ役人ハ
自分ノ出張ノ宜イ日ヲ極メテ突然通知ヲスル、郵便

ノ届カナイニ二期日ガ來ルカモ分ラナイ、郵便ガ届
イタ所ガ遠方カラヤッテ來ルダケノ日ガ無イカモ知
レナイ、或ハ病氣其他ノ事故デ出テ來ルコトガ出來
ナイカモ知レナイ、相手方ノ都合ヲ少シモ聞カナイ
デ、自分勝手ニ期日ヲ極メテ、期日ニ來ナカッタナラ
バ其儘直チニ査定ヲシテシマウ、其査定ニ對シテハ
恩圖々々言ヘナイ、勿論請願又ハ行政訴訟ノ途ガア
リマスガ、其境界ハ査定以後ハ行政處分トシテ、本法
ニ於テハ實地ニ效力ヲ發生スル事ニナツテ居リマス、
是等ハ餘リ此事件ニ對スル所ノ尊敬ト保護トノ觀念
ヲ缺イテ居ルト思ヒマス、斯ル事柄ト云フモノハ、須
ラク官僚思想ヲ一擲シテ、本當ニ是ハ平等ニ一律ノ
關係ニ於テ、相互ノ權利ヲ確定スベキコトガ當然デ
アラウト思ヒマスガ、左様ナル對等觀念ノ關係ニ於
テ、第三者ニ關係スル所ノ民法上ノ行為ハ、之ヲ規定
スルノガ穩當デアラウト思フノデアリマス、政府ハ
之ニ對シテドウ云フ御意見ヲ持ッテ居ルノカ、尙ホ一
例ヲ舉ゲテ見マスルト、第十五條ニ「國有財産ノ貸付
ハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス」尙ホ植樹ニ對シテ
ハ「植樹ノ目的トスル以外ノ場合ハ土地ノ貸付ハ三
十年」ト云フコトニナツテ居リマス、今日司法省ノ提
出案トシテ審議中ノ借地法案ハドウデアアルカ、若シ
當事者ガ期限ヲ切ツテナカッタ場合ニハ、借地上ノ建
物ガ堅固ノ建物ハ六十年、堅固ナラザル者ハ三十年
ヲ當然此期間トスルト云フコトヲ決メテ居ルノデア
リマス、假令土地ノ契約ヲ以テシテモ、三十年ヲ下ル
コトヲ得ナイト云フコトガアル、法律ハ既ニ此借地
法案ニ依リ、法律ハ三十年ト云フコトヲ以テ最短期
トシテ、成ベク六十年ニシテ吳レト云フ意思ハ明
カニナツテ居リマス、然ルニ此政府ノ方ハ自分ノ土地
ヲ人ニ貸付ケル事ハ三十年以上ハ出來ナイト云フ、
個人ノ貸付ケル場合ニハ、政府ハ法律ヲ以テ土地ノ
貸付ハサウ短期デハイカヌ、三十年テハ短カ過ぎル、
三十年以上ニシナケレバナラヌ、自分ノ土地ヲ貸付
ケルコトハ三十年以上ニハ出來ナイ、政府自ラ國民
ノ模範トナノナケレバナラヌノニ、自分デ貸スノハ
三十年以上ニハ出來ナイ、個人ノ貸スモノニハ三十
年以上ニスルト云フノデアアル、斯ウ云フ土地ヲ貸付

ケ、堅固ナ建物ノ或ハ其他ノ建物ヲ建テル爲メニ人
ニ貸付ケル場合ハ、純然タル民法上ノ行為デアアルカ
ラ、特ニ官有財産デアアルカラト云ウテ、普通ノ法律ノ
適用ヲ受ケヌト云フヤウナ威張ッテ見セル必要ハナ
イ、矢張借地法ヲ適用サル、ヤウニスレバ宜シイ、政
府ノ借地デアアルカラ何時國防ノ爲メニ必要ガ起ルカ
モ分ラナイ、サウ云フ場合ニハ別ニ契約ノ解除ハ何
時デモヤルコトガ出來ル事ノ規定ガアルカラ、斯ウ
云フ政府ノ仕事デアアル、政府ノ所有物デアアルカラト
云ウテモ、對等ノ觀念ヲ以テ規定スベキ所ノ私法上
ノ行為ニ付テ、常ニ特別ノ規定ヲ要求スルト云フコ
トハ、全ク此民衆化セザル法律デアアルト私ハ思フ、此
法案ニ付テハ洵ニ斯ウ云フ法律ガ出テ、此官有財産
ト云フ大事ナ物——規定ヲ法律デ定メルト云フコト
ハ、私ハ甚ダ賛成デアアル、大體ハ本案ニ付テハチット
モ異議ハ無イノデアリマス、サウ云フ點ヲモウ少シ
進ンデ此民衆化シタ所ノ社會化シタ所ノ眼ヲ以テ、
此法律ヲ私ハ訂正スルコトガ最モ必要デアアルト思ヒ
マス、當局者ハ之ニ對シテドウ云フ御意見デアアルカ、
ソレヲ伺ヒタイ

○西野政府委員 只今段々此法案ニ對シマシテノ御
意見ヲ承リマシタ、當局ニ於キマシテハ其立案スル
上ニ付キマシテハ何等國有財産ナルガ故ニ、一般民
法上ノ原則ヲ無視シテ、横暴ナル規定ヲ爲サントス
ル意思ハ毫モナカッタノデアリマス、或ハ不幸ニシテ
此法案ガ不備ナルガ爲メニ、斯ノ如キ誤解ヲ惹起シ
タカモ存ジマセヌガ、吾々ノ考ヘテ居ル所デハ、左様
ナ考ヘナイノデアリマス、元來契約ハ自由デアリマ
スカラ、民間ノ契約デアリマスルナラバ、公益公安ヲ
害セザル限リハ、如何ナル契約ヲ致スモ無論自由ト
思ヒマスガ、國有財産管理ニ付キマシテハ、民法ノ許
シタ範圍ニ於テ、行政官廳ハ自由ナル行動ハ出來ナ
イコトハ無論ノ話デアリマス、行政官廳ノ國有財産
ニ關スル管理ニ付キマシテハ、此法律ヲ以テソレ
ゾレ相當ノ範圍ニ之ヲ制限スル必要ガアリマス、其
制限ノ方面ニ於テハ、國有財産處分ナリ、其管理ニ付
キマシテハ、各種ノ制限的條項デゴザイマシテ、總テ
之ハ政府ノ行動——行政官廳ヲ拘束セザル行動デア

リマス、相手方ノ權利ヲ侵害シテ一向顧ミズ、政府ヲシテ横暴ナル行動ヲ敢テセシムルト云フコトノ趣意ハナイノデアリマス、國有財産保護ノ上ニ於テ、又行政官廳ガ勝手ナ行動ニ流レザルヤウニ、行政官廳ニ對シテ相當ノ範圍ニ制限ヲ設ケタノデゴザイマスガ、之ガ爲メニ相手方ノ權利ヲ侵害シ、公益ヲ害スルト云フヤウナコトヲ致サウト云フ考ハ、毛頭持ッテ居ラヌノデアリマス、尙ホ一例ヲ御舉ゲニナリマシタ此國有財産ノ境界査定ノ如キモ、是ハ國有財産ノ境界査定ヲ施行スルナラバ、斯様ナ方法ヲ以テ之ヲ施行スルト云フコトハ、大體ニ於キマシテ現行林野法ノ規定ニ準據シテ之ヲ立案シタノデアリマスガ、是モ政府自身ノ欲スル時ニハ境界査定ヲヤリマスケレドモ、各個人ノ要求ニ依ッテハ境界査定ヲ致サヌト云フノ趣旨ハ毛頭ナカッタノデアリマス、此ニ於テ各個人ノ要求ニ依ッテドウト云フ手續マデモ規定シテハアリマセヌ、要スルニ立法ノ精神ハ全ク自己ノ發意ニ依ッテ隣接地所有者ノ要求ニ基クテ問ハズ、境界査定ヲ施行スルト、斯ウ云フ方法ヲ執ルト云フコトニ致シタノデアリマス、隨テ私共ノ腹案ト致シマシテハ、勅令ヲ以テ一般人民カラ境界査定ノ要求ガアリマシタ場合ニ於テ、政府ニ於テ之ヲ相當ト認メマスレバ、境界査定ヲ施行スルト云フヤウナコトニ考ヘテ居ルノデアリマス、此規定ガ必ズシモ一個人ノ要求ヲ全然無視スルト云フヤウナ趣旨ハ、全然考ヘテ居ラナイノデアリマス、ソレカラ又三十年以上ト云フコトニ付キマシテ御話モゴザイマシタガ、是ハ主トシテ從來ノ法令ニ依ッテ許シテ居リマス所ノ既得ノ權利ヲ保護スル趣旨ニ出テ居リマス、本案ニ依ッテ既得ノ權利ヲ侵害スルト云フヤウナ考ハ毛頭ナイノデアリマス、隨テ是等モ法文ノ書キ方モ從來ノ法令ニ依ッテナシタモノデアッテ、此法律ノ效果トシテ既得ノ權利ヲ侵害スルモノノ如クハ考ヘマセヌガ、當局ノ立案ノ趣旨ハ左様ナ意味デハナイノデアリマス、是ハ從來ノ規定ニモ多數ノ例ガアラウト思ヒマス、寧ロ保護ノ規定ヲ設ケタ積リデアリマス、ソレカラ又此國有財産ノ貸付ニ付キマシテハ、是ハ從前ノ規定ニ準據致シマシテ、多少之ヲ變更シ、時勢ノ變遷ニ鑑ミ、大

體此邊ヲ以テ此行政官廳ニ國有財産ヲ任セル制限トシテ相當ト考ヘタノデアリマス、土地建物土地貸付期間ハ三十年デハ短イト云フヤウナ御議論ガアリマスカモ知レマセヌガ、之ヲ以テ國有財産管理ニ付キマシテ、公益ヲ無視シテ宜シイト云フ意味ハ無論ナカッタノデアリマス、行政官廳トシテ餘リ長キ期間ヲ契約致シマスコトハ、延イテ國ノ利益ヲ侵害スルト云フヤウナコトモアリマスカラ、成ベク其期間ニ於テハ相當ニ公益ヲ保護スル意味ヲ以テ、從來ノ期限ノ定ッテ居ル大體ヲ更ニ參酌シテ之ヲ決メタ次第デアリマス、強チ之ニ依テ一般人民ノ權利ヲ侵害スルト云フヤウナ考ハ勿論ナイノデアリマス、其他御舉ゲニナリマシタ各條項ハ大分ゴザイマシタヤウデアリマスガ、大體ニ於テ精神ハ左様ナ事デアリマスカラ、此點ガ民法ト抵觸スルト云フヤウナ御意見ガゴザイマシタラバ、喜ンデ承リマス、御賛成致スベキモノハ御賛成シタイ考デアリマス、一旦提案シタ事デアルカラ、理ガ非デモ是ハ自分ノ希望ヲ達セナケレバナラヌト云フコトハゴザイマセヌカラ、御心付ノ點ハ御腹藏ナク承リタイ、虚心坦懷ニ考究致シタイ積リデアリマス

○清水市太郎君 既ニ一度質問ノアツタコトデアリマスガ、少シ十分徹底シナイト思ヒマスカラ、更ニ御尋ネスル次第デアリマス、第十三條ノ「隣接地所有者境界査定ニ對シ不服アルトキハ其通知ヲ受ケタル日より六十日以内ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得」トアル、是ハ普通ノ裁判所ニモ訴フルコトヲ得ルカト云フ質問デアリマス、境界査定ハ行政處分デ、行政裁判所ニ屬スル從來ノ例ニ依ッテヤル、斯ウ云フ御答辯デアリマシタガ、其點ガ公益上ニ於テモ普通裁判所ヘ持出スト云フコトモ出來ルヤウニスルガ、自分ハ穩當デナイカト思ヒマス、ソレニ付テ政府委員ノ御考ヲ伺ヒタイ、其次ニハ境界査定ト云フコトハ、政府カラ見レバ行政處分デアリマス、併シ人民カラ見ルト、自分ノ所有權ヲ侵害サレル、先達御話ノ出タヤウニ、全部官有地ニ含メテシマッタト云フコトガアリマス、明カニ所有權ノ侵害デアリマス、ソレデアリマスカラ人民ノ側カラ見レバ、所有權ノ確認ノ

訴或ハ侵害ノ訴ト云フコトガ言ヘルノデアリマシテ、民事ノ訴訟ヲ持チ出ス、政府ノ方カラ見レバ行政處分デアアル、人民ノ側カラ見レバ私權ノ侵害ニナル、是ハ會テ東京控訴院ニ於キマシテ國有林ノ場合デアツタト思ヒマスガ、所有權確認ノ訴訟ヲ持チ出スコトガ出來ルト云フコトデアッタ、大審院ニ行ッテハ矢張行政裁判所ニ行クベキモノデアルト云フコトニナッテ居リマス、一ツノ事件ニ對シテ一ツノ救済ガアル、所有權ノ侵害ハ民事ノ救済ヲ求メルコトガ出來ル、又行政處分ニ依ッテ間違ッテ居ルノ行政處分ヲ取消スノデアリマスカラ、行政裁判所ニ訴ヘルト云フ、一ツノ事ニ於テ二ツノ救済ノ道ガアルヤウニシテハドウカト考ヘマス、政府ノ都合デ行政裁判所ニ出訴セネバナラヌト云フコトハ、私權ノ侵害ト云フコトニナリマスト不穩當ニナルヤウニ考ヘマス、矢張東京控訴院ガ判決ヲシタヤウニ、サウ云フ場合ニハ所有權確認ノ訴ヲ起ス、民事裁判所ニ持出スコトガ出來ル、行政處分デ非常ニ短期ナ通知ヲ受ケテ、六十日以内ニ持出サナケレバ確定シテシマウト云フ事ニナリマス、甚ダ所有權ノ不確實ナ事ニナリマス、六十日以内デナケレバ行政裁判所ニ持出スコトガ出來ヌ、所有權ガナクナッテシマウト云フコトハ、重大ナ問題デアリマス、所有權ヲ尊重スル意味カラ致シマシテ、一項ヲ設ケマシテ「前項ノ規定ニ拘ラス隣接地所有者ハ民事裁判所ニ出訴スルコトヲ得」ト云フ一項ガ加ハルノガ當然デナイカト思ヒマス、既ニ控訴院ノ判決ノアル如ク、法曹界ニ於テサウ云フ問題ガ起ッテ居リマス、近頃ノ新ニ出ル法制ト致シマシテ、成ベクサウ云フ意味ヲ加味シテ、サウシテ穩當ナル方ノ成文ニ改メルト云フ御考ハアリマスマイカ、サウ云フ方ノ御考ヲシテ戴キタイト考ヘマス、質問ナリ希望ヲ述ベテ御考ヲ伺ヒマス

○西野政府委員 御答ヲ致シマス前ニ一寸伺ッテ置キタイノデアリマスガ、私ハ甚ダ法制ノ事ニ不案内デアリマシテ、是ハ清水サンノ方ガ御精シイト思ヒマスガ、只今ノ御尋ノ判決例デアリマスガ、ソレニ依リマスレバ一ツノ事件ニ付テ司法裁判所ニ屬スルコトガ出來、又同時ニ行政裁判所ノ管轄ニ屬セシメタ

ト云フ實例ガアルト云フ御話デアリマシタガ、ソレヲ伺ヒマス

○清水市太郎君 只今御話申シマシタ——國有林ノ問題ヲ行政裁判所ニ持出スノハ、國有林野下戻法ニ依テ持出スベキモノデアツテ、ソレガ民有林ガ國有林ニセラレテ、即チ所有權ヲ侵害セラレテ、所有權確認ノ訴ヲ持出シテ、一審敗ケテ控訴デ勝ツタ、サウ云フノハ一審デハ行政裁判ヲ仰グベキモノデアアル、控訴院デハソレハ所有權確認ト云フモノデアアル、サウ云フ例ガアリマス、ソレデ詰リ政府ノヤツタ仕事ト云フコトナラバ、行政裁判所ニ持出スモノデ、人民ノ權利ガ侵害サレタト云フ人民側カラ見レバ所有權確認デアアル、一ツノ事件ニ對シテ二ツノ救済ノ道ガ開ケテ居ル

○西野政府委員 御質問ノ趣旨ハ了解致シマシタ、承ル所ニ依リマス、只今御話ノ問題ニ付キマシテハ、其後大審院ニ於キマシテ、斯ノ如キ問題ハ行政處分ニ屬スルモノデアアルカラ、行政裁判ニ依ツテ決定スルモノナリト終局ノ決定ニ相成ツタト云フコトデアリマス、隨テ現今ノ實際ニ於キマシテハ、大審院ノ終局ノ判決モ亦行政處分ト看做スコトニ一致ヲシテ居ルノデナイカト思ヒマス、要スルニ此土地所有權ノ境界ノ事ニ付テハ、無論此私法上ノ關係ト重大ナル關係ガゴザイマスガ、從來ノ沿革上土地ニ關スル國ノ關係ト致シマシテ、國有林野ニ付キマシテモ、國有林ト民有林トノ境界ニ付キマシテハ、從來行政處分ニ屬セシメタノデアリマス、從來ノ沿革カラ今モ境界査定ニ付キマシテハ、之ヲ行政處分ト認メマシテ、隨テ行政裁判所ノ救済ヲ受ケシムルコトガ相當デアルト考ヘマス、只今御話ノ如ク一ツノ事項ニ付キマシテ、司法裁判所並ニ行政裁判所ノ兩方ノ管轄ニ分屬セシメテ、兩方ノ救済ヲ同時ニ受ケシムルコトハ、如何デアラウカト存ジマス、御意見ハ是等ノ事ハ全然行政裁判所ト分離スガ宜イト云フ御趣旨カト存ジマスガ、其點ニ付テハ從來ノ沿革上、之ヲ行政處分ニ屬セシムルト云フコトガ宜シカラウト考ヘテ居ルノデアリマス

○清水市太郎君 行政裁判所ヘ持出ス、民事裁判所

ヘ持出ス、二ツノ所ヘ持出スト云フノデナイ、行政裁判所ヘ持出スカ、民事裁判所ヘ持出スカ、何方デモ隣接地所有者ノ選擇ニ依ル、斯ウ云フ風ニスルガ穩當デナカラウカト云フ考デアリマス、詰リ所有權ノ侵害ニナリマス、政府カラ見レバ政府ノ官吏ニ處分ヲヤラセタ、人民ノ方カラ見レバ、所有權ガ侵害サレテ、所有權ヲ失フト云フノデアリマス、政府ガ自分デヤツテ自分ガケノ方カラ見テ、行政裁判所ニ持ッテ行ケト云フコトハ、酷デアリ、法理ニモ適ハヌコトニナル、ソレデ行政裁判所デ問題ヲ解決スベキモノデアアルト云フコトハ如何カト思ヒマス、所有權ガ侵サレテシマツテ、自分ノ物ガ國家ノ物ニナツテシマウ時ニ、通知ヲ受ケタ日ヨリ六十日內ニ持ッテ行カナケレバ國家ノ物デアアルト云フコトハ、恰モ金ヲ貸シタ奴ガ、何日前ニ拂ハナケレバ前ハ服從シタモノト認メルト云フ手紙ヲ出スコトガアリマスルガ、片方デハ出來ルモノデナイ人民ノ物ヲ政府ノ物ニシタト云フコトガアツタ場合ニハ、ソレハ所有權ノ侵害デアアル、サウ云フ事ヲ人民ガ行政裁判所ニ持ッテ行カナケレバナラヌ、六十日迄ニ出サナケレバ國家ノ物ニナルト云フコトハ不當デアアルト云フコトハ、法理上ノ見地カラシテ考ヘラレルノデアリマス、東京控訴院ガ國有ニナツタモノヲ、所有權侵害確認デ、サウ云フコトハ出來スト云フ判決ヲ出シタノハ、法理ノ上カラ見テ當然ノ判決デアアルト思フ、大審院ノ判決例デ以テ、行政裁判所デナケレバイケナイト云フ風ニ仕切ツテシマツタノハ、澤山ノ國有林ノ問題ニ付テ勸カス爲メノ便宜ノ上カラ拵エタノデ、法理ノ上カラ考デハナイ、斯ノ如キ判決例ハ、縱令大審院ノ判決例ト雖モ、是ハ誤リタル判決デアアルト思ヒマスカラ、覆サナケレバナラスモノデアアル、立法者トシテハドウシテモサウ云フ弊害ヲ打破ラナケレバナラヌト云フ進步シタル御考ニ依リマシテ、是ハ意見ニナリマスガ、政府ノ御考慮ガ求メタ次第デアリマス、如何ニモ所有權トシテハ重大ナル問題デアルヤウニ考ヘマスカラ、既ニ質問ガアリタルニ拘ラズ伺ツタ次第デアリマスカラ、御考慮ヲ煩シテ置キタイト思ヒマス

○西野政府委員、本案ヲ提出スルニ付キマシテモ、

此點ニ就テハ十分研究ヲ致シタ結果デアリマスガ、尙ホ此問題ニ付テハ重ネテ熟考ヲ致シマスガ、大體ニ於テ先ヅ提案ヲ相當ト考ヘテ居リマス、念ノ爲メニ伺ツテ置キタイノハ、詰リ御意見ハ國有財産ニ就テハ、境界査定ノ行政處分ヲヤレト云フ御意見デアリマス、境界査定ハ認ムルガ、其處分ニ不服アリトスレバ、行政裁判所ニ出訴ヲ許スト同時ニ、所有權ノ侵害トシテ民事訴訟ヲ起スコトモ選擇サセルト云フ御意見デアリマス

○清水市太郎君 境界査定ノ行政處分デ以テ、即チ人民ノ物ヲ國有ニスルト云フコトニ査定セラレタ時ニ、政府ノ方カラ見レバ誤ツタ行政處分デアレバ、其行政處分ヲ取消スノガ至當デアアル、人民ノ方カラ見レバ、自分ノ物ヲ官ニ取ラレタノデアアルカラ、所有權ヲ侵害サレタノデアリマスカラ、民事訴訟所所有權確認ノ訴ヲ起スコトガ出來ル、一ツノ事件ニ就テ、政府カラ見レバ行政處分デアリ、人民カラ見レバ所有權侵害ニナルノデアリマスカラ、行政裁判所ニ出訴スルカ、又ハ民事裁判所ニ出訴スルト云フ、一ノ事件ニ就テ二ツノ救済ノ途ヲ開キタイト、斯ウ思フノデアリマス

○清室太郎君 此委員會ハ他ノ案ヨリ一層御勉強ニナツテ居ルヤウデアリマスガ、モウ大抵質問モ盡キタヤウニ見受ケマスカラ、大體ニ於テ質問ハ御申合セモアリマスカラ今日デ打ちリマシテ、一箇條ニ就テ委員諸君カラ御意見モアルヤウデスカラ、小委員ヲ五名委員長ノ指名デ設ケテ、政府ト御交渉ヲ願ヒタイト思ヒマス、サウシテ小委員會ノ進行ノ模様ニ依リマシテ、成ベクナラバ明後日アタリ會ヲ開イテ決定シタイト思ヒマス、併シ必ズ明後日ト云フ譯デハナイ、小委員會ノ進行ノ模様デ開クコトニシテ、兎ニ角小委員ヲ設ケルト云フ動議ヲ提出致シマス

〔理事竹上藤次郎君委員長席ヲ退キ、委員長清水市太郎君委員長席ニ著ク〕

○高木正年君 清サンノ御發議ハ御尤ト思ヒマスガ、如何デセウカ、清サンニ御相談申上ゲタイノデスガ、實ハ豫算分科ガ澤山アツテ、明後日ト仰ッシャツテモ豫算關係ノ者ハ迷惑スルノデアリマスガ、此事ハ大問

題アリマスカラ、次ノ火曜日アタリニヤル事ニ願ヒタイノデスガ、如何デセウ、八日ナラ豫算ノ分科ノ決議アリマシテ、分科ノ決議ハ十分カ二十分デ済ミマスカラ、八日ナラ差支ナイト思ヒマスガ――

○澤來太郎君 ドウデセウ、此法案ヨリモ後カラ提出ニナツタモノデ、既ニ貴族院ノ方ニ廻サレテ居ルモノガアル位デ、此法案ハ意外ニ長クナリマシテ、隨テ委員各位ノ質問應答モ重ネラレタノデアリマスカラ、願クハ清君ノ御發議ノ通り、成ベク早く討論ニ入りタイト思ヒマスガ……

○委員長(清水市太郎君) 清君ノ御意見ノ小委員ヲ舉ゲテ、ソレニ修正トカ何トカ意見ヲ纏メサセル、サウシテソレヲ……

○清峯太郎君 明後日ハ日曜デアリマスカラ、小委員會ノ進行ノ模様ニ依ルコトデアリマスガ、成ベク早イコトヲ私ハ望ミマス

(賛成ト呼フ者アリ)

○委員長(清水市太郎君) サウスルト五名ノ小委員ヲ舉ゲルコトニハ御意見ハナイヤウデアリマスルカラ、サウ確定致シマシテ、小委員ヲ追テ指名シテ御知ラセスルコトニ致シマス、ソレカラ質問ハマダ何カ朝鮮臺灣ニ對シテ質問シタイ方ガアルヤウナ御話モアリマシタガ、質問ヲ打切ッテ討論ニ入ルコトニシマスカ

○高木正年君 質問ダケハ保留シテ頂キタイ

○澤來太郎君 質問ヲ打切ルト云フコトハ勿論賛成デハアリマスガ、其前ニ前回ニ於テ農商務ノ政府委員ニ御尋シテ、御答ヲ保留シテ置イタ事ガアリマス、ソレニ對シテハ未ダ御答ガ無いノデアリマスガ、是ハ答辯ヲ要求スル優先權ヲ有シテ居リマス

○清峯太郎君 今日ハマダ時間ガアリマスカラ質問ヲシテ、今日デ打切ルコトニシテハドウデスカ

○澤來太郎君 今日ナラ賛成シマス

○委員長(清水市太郎君) ソレデハモウ少シ繼續シテ質問ヲ許シマス

○田中政府委員 澤君ノ質問ヲ保留爲サツタノハ何ノ點デスカ

○澤來太郎君 前回農商務省ノ政府委員ニ對スル質問ヲ保留シテ、考慮ノ時間ヲ十分ニ御與ヘ申シテ置イタノデスカラ、ソレ迄御忘レニナルト云フコトハアルマイト思ヒマス、保留サレテ考慮ノ時間ヲ與ヘテ、尙ホ問題マデモ逸スルニ至ッテハ、驚ク外ナイ

○田中政府委員 今日政府委員中ニ出テ居ラス者モアリマスノデ、或ハ他ノ政府委員ニデモ御話シニナツタコトデゴザイマセウガ、私ハ答辯ヲ保留スルコトヲ申上ゲタコトハナイヤウデスガ、甚ダ老年ニ及ンデ健忘ニナツタノカモ知レマセウガ……私デゴザイマセウカ、今日ハ山林局長ハ差支ノ爲メニ出テ居リマセウ、或ハ局長ガ承ツタノカモ知レマセウ、甚ダ失禮デアリマスガ、若シモ餘リ長イ事デナケレバ簡單ニ繰返シテ頂イテ、御答シ得ルコトデアレバ私ガ御答致シマス

○澤來太郎君 ソレナラバ止ムヲ得ズ申上ゲマス、山林局長ニ對シテ御尋ラシタノデアリマス、然ルニ山林局長ハ頗ル重大ノ問題デアル故、私一箇トシテ御答致シ兼ネル、次官大臣等ニ能ク諮ッテ後ニ答ヘルト云フコトデアリマシタカラ、無論御出席ニナツテ居ル次官公ニハ御諮リニナツタ事ト思ヒマス、ソレモ御諮リガナカッタト見エマシテ、ドウ云フコトヲ問ハレテアツタカ分ラヌト云フノデアリマスカラ、ドウモ致方アリマセウ、致方ガアリマセウガ、ドウモ政府委員ノ委員會ニ對スル御言葉ナント云フモノハ、餘リ信用出來ヌモノト諦メルヨリ外ナイ、マアソレハ兎ニ角モトシテ私ノ御尋致シマシタ事ヲ更ニ再ビ申シマスレバ、私ハ國家ノ政策ナルモノハ、國ニ一ツアツテ二ツトハ有ルベカラザルモノデアラウ、其省ハ遠ヒマスケレドモ、一例ヲ言ヘバ、即チ日本ノ畜産政策ハソレニ關スル農商務省ニ於テ統一サレテ居ルモノデアラウト思フ、然ルニ實際ヲ見ルト、陸軍ニモ畜産アリ、軍馬補充部ナドモ畜産ニ關係シテ居ルヤウデア

ル、其他今一ツ例ヲ舉ゲマスレバ、是ハ政府ノ行政系統ヲ離レテ居ルハ勿論デアリマスケレドモ、宮内省ニモ矢張畜産ヲ營ンデ居ル場所ガアル、是ハ別デアリマスカラ敢テ其點マデ御尋スルノデハアリマセウ兎モ角モ一省内ニ統一サレテ講ゼラルベキ所ノ政策ガ多岐ニ分レテ居ル、私共門外漢カラ見ルト甚ダ不

審ニ堪ヘナイ、陸軍省ハ馬政局ト云フモノヲ置イテ、種馬所ヲ設ケテ馬ヲ作ッテ居リ、又軍馬補充部ガアツテ馬ヲ飼養シテ居ル、恰度生産者ト需要者ヲ一絡ニ營ンデ居ル様ニナツテ居ル、是ハ國トシテハ、生産スル場所ハ生産スル場所ト定メ、需要スル場所ハ需要スル場所ト定メテ置ク方ガ統一ガ付イテ宜カラウト思フ、加之生産需要ノ關係カラ言フノミナラズ、一體農商務省トシテハ斯ノ如キ事ハ、林政ヲ統一スルト同一理由ノ下ニ、矢張御統一ナサラナケレバナルマイト思フ、サウ云フ御計畫若クハ御意思ガアルデセウカ、如何デセウカト云フコトヲ御尋シタノデス

○田中政府委員 御答致シマス、只今畜産殊ニ馬政ノ事ニ付テ行政ヲ統一スルコトノ熱心ナル御希望ガ澤君ヨリ御論議ノアツタト云フコトハ、確ニ山林局長ヨリ承リマシタノデアリマスケレドモ、只今ソレニ附加ヘテ御話ノ如ク、大臣ト次官ト協議ラシテ、其結果ヲ御返事申上ゲルト云フ最後ノ一段ダケハ、實ハ有リマセウノデ、多分聽違ヒデアツタラウト思ヒマス、ソレ故ニ御答辯ヲ保留シタトカ何トカ云フ事マデ、先程申上ゲタヤウニ頓珍漢ノ御話ヲシタヤウナ譯デ、甚ダ恐縮ニ存ジマス、其事デアリマスレバ、先日林業ノ行政統一ノ事ニ付テ澤君カラ御話ガアリマシタ如ク、素ヨリ畜産等ノ事ニ付テモ統一ト云フコトハ必要ニ相違アリマセウ、而モ只今問題ニナツテ居リマスル馬ノ如キハ、元々是ハ農商務省ノ管轄デアツタノデアリマス、私共前年農商務省ニ居リマシタ時ハ、農商務省ノ管轄トシテ――譯モ分ラヌニモ拘ハラズ、私ノヤウナ者ニデモ種馬所ノ巡回ヲ命ゼラレタヤウナコトモアツタノデス、所ガ其後ノ經過ヲ陰ナガラ承ツテ居ル所ニ依リマス、殊ニ日露戰爭等ノ結果トシテ、日本ノ馬ハ如何ニモ貧弱デ、戰爭ノ目的ノ上カラハ甚ダ役ニ立タヌ、ドウシテモ軍事上ノ見地カラシテ日本ノ馬政ヲ一新シナケレバナラヌト云フヤウナ説ガ數々勢力ヲ占メマシテ、殊ニ御承知ノ通り從來ノ財政行政等ノ全般ヲ見渡シマシテモ、兎角農商務省ノ行政費ナドト云フモノハ、偶々計畫ヲシテ、漸クニシテ議會マデ提出シテモ、容易ニ御許シガ出ナイ、陸軍トカ海軍トカ云フ方ハ、無論國家ノ急

務カラ割出サレテノ事デアリマスカラ、不平ヲ申スノデハアリマセヌケレドモ、比較的非常ニ多額ノ金ガ容易ニ通過スルコト云フヤウナ現状デ確ニアッタノデアリマス、殊ニ日清戦争ト日露戦争ト引續キマシテ、軍事上ノ事ニ付テハ、朝野トナク皆特別ノ注意ヲ拂フト云フヤウナ情勢デアッタモノデゴザイマスルカラ、ソレ等ノ事情ガ結付イテ、結局矢張馬政ニ關スルコトモ之ヲ陸軍ノ手カラ離レテ、特ニ軍政上ノ見地カラ、馬産ノ増殖、或ハ其育成等ニ就テ改良進歩ヲ圖ルコトガ、國策上必要デアルト云フコトニ廟議ガ一決シタモノト見エマス、ソレ故ニ只今ノ如ク他ノ畜産ハ總テ農商務省ニ於テ統轄シテ居リマスケレドモ、馬ダケニ付キマシテハ、全ク之ヲ陸軍省ノ管轄ニ移シテ、馬政局ト云フ所デヤツテ居ルノデアリマス、農商務省トシテハ無論農商務省ニ於テ馬政ノ事ニ就テモ纏メテ行キタイト云フ考ヲ持ッテ居ルニ相違アリマセヌ、併シナガラ今申上ゲマシヤウナ沿革ノ事情モゴザイマス、又日本ノ國策トシテ、日本ノ馬ヲ大ニ増殖スル、又改良スル、ソレヲスルニハ特ニ軍事上ノ見地カラ之ヲヤツテ行クト云フコトガ必要ナリトスレバ、是ハ陸軍ノ行政ニ委ネルト云フコトモ亦已ムヲ得ナイニ相違アリマセヌ、サウ云フ成行デ、結局今日ノ國政上、是ハ所謂軍ヲ主トスルコト云フ所カラ陸軍ノ管轄ニ移シテ、永久デアリマスマイガ、陸軍デ統一スルコトガ國家ノ急務ニ應ズル所以デアルト云フコトニナツテ居リマス、ドウゾ其邊ノ事情ハ御酌取ラレンコトヲ願ヒマス

○澤來太郎君 只今ノ御答辯ニ依テ、產馬事業ガ農商務省ノ手ヲ離レテ、陸軍省ニ移タト云フ沿革ハ承知致シマシタガ、實ハ私ハ沿革ヲ御尋シタノデハアリマセヌ、畜産其モノ、所屬ハ、當然農商務省ニ屬スベキモノデアラウカ、將タ陸軍省ニ於テ爲スベキ事業デアラウカト考ヘテ見マスルト、無論畜産ノ統一上カラ見マシテモ、行政ノ系統ノ所屬カラ申シマシテモ、陸軍省ニ屬スベキ事業ニ非ズシテ、當然農商務省ニ屬スベキ事業デアラウト思フ、ソレガ馬政局ノ方ニ移サレタト云フノハ、即チ勢力問題——當時陸軍ガ戰捷ノ勢ヲ驅ツテ陸軍ガ内閣中デモ幅ノ利イタ

時デアリマスカラ、其勢ヲ以テツイ產馬事業ヲ陸軍ノ手ニ移シタ、之ニ比較シテ農商務省ハ無勢力トハ申シマセヌガ、勢力ノ薄イ爲メニ、當然己レノ爲スベキ事業ヲ他ニ奪ハレタト云フヤウナコトデナカラウカ、私ガ斯様ニ申スノハ、甚ダ柄ニナイカモ知レマセヌガ、私ハ地方ニ於テ產馬組合長ヲ勤メテ居リマスガ故ニ、少シク產馬事業ノ事ハ聞嚙ッテ存ジテ居ラウト、孰レノ方面ニ於テ營マレルトシマシテモ、事柄ハ極メテ簡單ノ事業デアアル、即チ陰陽雌雄ノ關係ニ出デナイ、即チ良キ牡馬ヲ良キ牝馬ニ交尾サセレバ宜イ、ソレヨリ外ニ方法ハナイ、極ク簡單ノ事デア

ル、ソレハ陸軍省ノ手デ交尾サセタカラ良イ馬ガ出來ル、農商務省デヤツタカラ惡イ馬ニナルト云フ如キモノデハナイ、一ニ交尾關係デアアル、或ル省カラ或ル省ニ移シタト云フコトデ、馬ニ良否ガ出來ルモノデハナイト思フ、但シ馬ナルモノガ陸軍トシテ國防上必要ナルモノナルコトハ論ズルマデモアリマセヌカラ、陸軍省ニ關係ガ無イモノデハナイ、故ニ陸軍省ト交渉ヲ保チツ、連絡ヲ取ツテ行クトハ必要デアリマセウガ、交尾關係ニ於テハ、何等關係ノアルベキモノデハナイト云フコトハ、略易キ事デアアル、惡イ牡馬ニ惡イ牝馬ヲ交尾サセタノデハ、陸軍省デヤラウガ何所デヤラウガ、良イ馬ガ出來ナイト云フコトハ分リ切ッタコトデアアル、而モ是ハ行政系統ノ上カラ申シマシテモ、事業其モノノ性質カラ申シマシテモ、當然農商務省ノ爲スベキコトデアアル、ソレヲ陸軍省ノ方ヘ移サレテ、農商務省ガ指ヲ咬ヘテ見テ居ルト云フ事ハ、農商務省トシテモ情ケナイ話デアアル、併シソレデモソレガ國家ノ爲メニ利益デアルト云フナラバ、國ノ爲メニ忍ブベシトスルモ、陰陽雌雄ノ關係ニ止マルノデアアルカラ、是ハ寧ろ我國ノ畜産統一ノ上カラ、當然農商務省デヤラナケレバナラヌコト思フノデアリマスカラ、是ハ舊制ニ復シテ、陸軍省ト連絡ヲ保ツト云フダケニシタ方ガ宜カラウト思フ、閣議ニ於テ決シタト云フコトモアリマシタガ、農商務大臣モ閣議ニ臨マレタデアリマセウ、國務大臣トシテハ陸軍大臣モ農商務大臣モ等シク國務大臣、國務大

臣トシテハ少シモ優劣ハナイ、當然自己ノ營ムベキモノヲ他ニ營マシテ置クト云フコトハ、要スルニ勢力問題ニ關スルコトデアリマスカラ、農商務省ノ衰勢ヲ挽回シテ、茲ニ一大勢力ヲ張ラレンコトヲ希望致シマス

○高木正年君 文部省ノ政府委員ガ居ラレマセヌカラ、是ハ保留シテ置キマス、今田中次官ガ御出デ、スカラ、營林財産ノ事ニ就テ一寸申上ゲタイ、此事ハ一應官有財産ノ法案ノ審議ノ場合ニ伺フベキデアリマシタガ、機會ヲ得マセヌデシタカラ一寸伺ヒマス、其事ハ嘗テ國有財産法制定ノ際ニ於テハ、農商務省ノ所管ニアル所ノ國有林野法ヲ廢スコトニ此法案ノ原案ハナツテ居ッタガ、農務務省ノ方デ、次官ヲ初メ山林局長杯ガ御力メニナツタ結果、國有財産法ニ抵觸セザル限りハ、尙ホ國有林野法ノ存在ヲ認メルコトニナツタ、其當時私共ハ國有財産ノ原案ニ對スル修正ノ各項ニ伴ッテ、是ガ附帶スルヤウニ要求シタコトガアル、ソコデ國有財産法ノ制定ニ就テハ、一應農商務次官ノ御聲明ヲ求メテ置キタイト思フノデアリマス、ソレハ外デモアリマセヌガ、是ハ只今澤サンカラ國有林ノ統一ニ就テ御話ノアッタト云フコトハ、只今澤サンノ御發言中ニ伺ヒマシタガ、或ハ其御言葉ノ中ニ入ッテ居リマシタラ、私ハ強イテ申シマセヌ、委員長カラ御注意ヲ願ヒタイ、唯ダ從來ノ農商務省ノ爲サレ方ガ、國有林野ノ處分ニ就キマシテハ、所謂陸軍省邊リガ何時モ官有地ヲ自分ノ方ヘ取ツテ置カレテ、或ル歳出ヲ要求スル時ニ其財源トシテ提供シテ居ル、今年ノ豫算ニモソレハアル、丁度ソレト同ジク大藏省ニ向ッテ御要求ニハナラヌガ、併シ國有林ノ整理ノ上ニチビリ、少々ツツ農商務省デ土地ノ整理ヲナサル、畢竟内地ニ於ケル國有林ハ、農商務省ガ役所ノ御都合デ斯ウ云フ風ニ何時モ整理ヲナサル、ソレ故未開地ハ何時マデモ未開地デアアル、之ヲ民間ニ拂下ゲ、或ハ關係町村ニ委セルト云ヘバ、或ハ幾多ノ收入ヲ得ル事モアル、或ハソレニ依ッテ未開地ガ直チニ植林若クハ其他開墾地等ニ變ッテ行ク事ニハナリマスガ、農商務省ノ手ニ於テミス、整理ヲシナケレバナラヌト云フ時ニモ、其國有林野ノ其年度ノ金ノ

要求ノ起ルマデ打棄ツテ御置キナルト云フヤウナ從
來慣習ガアル、ソレ故ニ國有林野法ヲ廢シテ、寧ソ國
有林ヲ統一シテ國有財産法ニ依ツテヤラウ、斯ウ云フ
意味ニ於テ我々ハモト原案ヲ賛成シタ一人デスガ、
農商務省ハ頻リニ之ヲ維持ナスツタ、其時ニ私共ハ希
望トシテ、是非今後ハ農商務省デハ國有林野中ノ整
理スベキモノハ整理スル部分トシテ、一時ニ御提出
ニナツテ之ヲ處分ナサレ、サウシテ要求スベキ金ガア
ルナラバ、更メテ國庫カラ出スヤウ大藏省ニ御要求
ニナツタガ宜イ、不用ノモノハ不用ノモノトシテ早ク
御處分ニナレバ、御處分ノ期日ガ早ケレバ早イ程營
林事業ハ進ンデ行キ、民間ノ開墾其他ノ事業モ進ン
デ行ク、唯ダ手ヲ束ネテ置イテ、手許ニ引留メテ置イ
テ、開墾モシナイ、植林モシナイ、金ノ要ル時ニ當
テ農商務省ノ國有林野ノ整理ニ使ハウ、此事ガ極メ
テ國有林野法ノ存在ノ上ニ伴フ所ノ弊害デアルト云
フコトヲ申上ゲタ、當時農商務次官及山林局長ハ、趣
意ハ能ク分ツタ、何分今後ハサウ云フ方針ニシヤウト
云フ稍々條件附ノヤウニナツテ、私共ハ國有財産法ノ
原案ヲ修正シテ、今日ノ法案ノ如ク抵觸セザル限リ
ハ國有林モ入ルト云フ事ニナリマシテ、只今私ガ申
上ゲタヤウナ趣意ヲ今後農商務省デ御執リ下サル
カ、御執リ下サラスカ、此法案ヲ議スル上ニ此問題ハ
重大ナル關係ヲ及ボス問題デアリマスカラ、一應農
商務省トシテノ御意思ヲ此際承ツテ置ク必要ガアリ、
其上デ更ニ質問ヲ申上ゲル次第デアアルノデアリマ
ス

○田中政府委員 御答致シマスガ、御趣意ノ在ル所
ハ能ク農商務當局ニ於テモ承知シテ居リマスル點デ
ゴザイマシテ、而モ只今ノ御言葉中ニ、何カ農商務省
ガ不要存地ヲ特ニ溜メ込ンデモ置イテ、他日ノ用
ニ供スルト云フヤウナ御話デアリマシタガ、サウ云
フ事ハ決シテ無イ積リデ居リマス、能ク農商務省ノ
事情ヲ御調べ下サイマシレバ、農商務省トシテハ決
シテサウ云フ事ハ無イ積リデ居リマス、而モ不要存
地ノ事ニ就キマシテハ、數年來此事ノ爲メニ特別ノ
調査モ致シマスシ、又要存置林トスルカ、不要存置
林トスルカト云フコトニ就キマシテハ、各省カラ委
員ヲ選定シマシテ、慎重ナル審議ノ末ニ決定致シマ
シテ、然カモ閣議ニマデ掛ケテ、ソレヲ決メテ居リマ
スヤウナ事情デゴザイマシテ、全國ノ森林中ニ不要
存置林トスベキモノト存置林トシテ是カラ營林財産
トシテ殘スモノトハ判然區畫ヲ立テ、居リマス、
唯ダ今日係爭中ニ掛ルモノ——矢張民間トノ間
ニ下戻ノ問題等ガアリマシテ、未定ノモノモ幾分ゴ
ザイマシケレドモ、サウ云フモノヲ除キマシテ、殆ド
總テハ存置林ト不要存置林ト云フモノノ區別ガ立ッ
テ居リマスノデアリマス、ソレカラ之ヲ一日モ早ク
處分スル、不要存置決ツタモノニ就キマシテ、一日
モ早ク處分スルト云フコトハ、農商務省モ希望致シ
マスルシ、大藏省モ希望スル譯デ、ソレヲ早ク處分ス
ルコトニ就テ、少シモ蟬カマリハナイ筈デアリマス
ケレドモ、中々此山林ノ處分ト云フモノハ容易ク參
リマセヌノデ、之ヲ處分致シマスルノニ、色々ナ經濟
上ノ關係モ見ナケレバナラズ、又山林ト云フモノハ
何處ヘデモ持ツテ行ク譯ニ行カヌノデアリマスカラ、
矢張其地方ノ關係ノアル者ガ希望シテ呉レナケレ
バ、賣拂ニ困難ヲスル様ナ事モアルノデアリマス、デ
立派ナ所謂其山林ノ上ニ生エテ居ル樹ダケデ以テ山
林ノ値打ガアルト云フ様ナモノデアリマシレバ、是
ハ又色々ナ商人等ノ希望モアルカモ知レマセケレ
ドモ、所謂不要存置トシテ賣拂フノデアリマスカラ、
或ハ其區域モ大キクナシ、大キカッタ所ガ、所謂山林
トシテ經營ナドハ連モ困難デアルト云フヤウナ曰ク
附ノ山林デアアルモノト見ナケレバナラズ、サウ云フ
ヤウナ事情デゴザイマシマスルカラ、中々之ヲ容易ニ早
ク取捌イテ仕舞フト云フコトハ困難デアアルノデアリ
マスケレドモ、他ノ一面ニ於テハ、此賣拂ヒマス財産
ヲ以テ、又外ノ全體ノ營林財産ノ森林ノ經營ノ方ノ
費用ニ充テ、行ク大體ノ計畫ニナツテ居ルノデアリ
マスカラ、之ヲ處分スルコトヲ必要トシテ、強イテ處
分シテ居ルヤウナ譯デ、今日ニ於キマシテハ、只今ノ
調査ニ依リマススト云フト、十七万町歩許リガ未處分
トシテ殘ツテ居リマスノデアリマシテ、大體處分ハ順
調ニ進ンデ居ルモノト御承知ヲ願ヒタウゴザイマス
○高木正年君 只今ノ御言葉ノ中ニ、矢張農商務省

ノ營林事業ノ財産ニナサルト云フヤウナ計畫ヲ尙
ホ今後モ御遺リニナルヤウナ御言葉ガアツテ、私共ト
議論——ト云フト可笑シイガ、意見ノ違フノハ其所
ナノデス、不用林トナリマシタモノハ、之ヲ農商務省
ニ引留メテ、他日整理シテ營林事業ノ資金トスルト
云フコトヲ御止メニナツテ、不用ノモノハ不用ノモノ
トシテ處分スル、サウシテ特別會計ニデモシテ其處
ヘ積ムナラ積ム、或ハ他ノ支出ニ使ツテ、更メテ入用
ノ分ダケハ國カラ御要求ニナル、畢竟ズルニ營林事
業ノ資金ニシタイ爲メニ、先刻申上ゲタ通り整理ガ
自然引留メラレル爲メニ遲レルト云フヤウナ事ニナ
ル、ソレガ營林事業ノ爲メニ宜シクナシ、又國有林
トシテモ、開墾セラルベキモノモ開墾ガ遅レルト云
フヤウナ事ニナツテ來ル、此際矢張不用林ハ不用林ト
シテ、他ノ役所ノ不用地ト同ジ事ニ何カ拂下ゲルナ
リ處分シテシマフ、サウシテ更メテ農商務省デ御要
求ダケノ金ヲ御取リニナルガ宜イ、手許ニ引留メテ
置クト云フコトハ無用ト思ヒマス、是ダケヲ申シテ
置ケバ宜ウゴザイマス、是ハ國有法ノ制定ノ時ニ大
分八釜シクテ、改メテ此際申上ゲテ御意見ヲ伺フ必
要ガアルト思ツテ居リマス

○田中政府委員 一寸申上ゲマスガ、御好意ハ深ク
感謝致シマスガ、事實ニ付テ多少誤解ガアルヤウデ
アリマスカラ、一言念ノ爲メ申上ゲマス、森林ノ資金
ハ別ニ特別會計ニナツテ居ルノデアリマシテ、農商務
省ガ之ヲ早ク賣ルトカ、遅ク延バストカ云フコトハ
少シモナイノデアリマス、是ハ別ニナツテ居リマス、
又今後未處分ノモノモ一兩年ヲ出デズシテ總テ完結
スル見込デ居リマス、何時迄殘ル譯デアリマセヌ

○高木正年君 私モ特別會計ニナツテ居ルコトヲ承
知シテ居リマス、其特別會計ニ入ル金ハ現在營林財
產トナツテ居ル中ノ伐木、其木ノ代價ハ特別會計ニ入
レテ他ノモノニ使フ、不用林野ノ賣拂ツタモノヲ特別
會計ニ入レルト云フコトデナク、是ハ一旦國ヘ返ス
ベキガ至當デアアルト申上ゲタノデ、誤解ノナイヤウ
ニ願ヒマス

○田中政府委員 其點ガ誤解ガアルノデ、特別會計
ニ入ルノカ——不要存置ノ賣却金ガ特別會計ニ入ル

ノデアリマシテ、後ノ話ノ一般ニ賣拂フモノハ皆矢張一旦國ニ編入サレル譯デアリマス、逆デアリマス、其點ヲ御斷リシテ置キマス

○高木正年君 私共ハ今後ノ營林事業ニ付テハ、先キニハ皆ドウナツテモ宜イ、只今迄處分ナサレルモノハ處分シナイデ、資金ニ取ツテ置クト云フ爲メニ、段段處分ガ遅レル、國有林野法ヲ廢ス方ガ宜イト云フ議論ガアル、所ガ國有財産デ林野法ヲ置クト云フコトニナツタニ付テハ、山林ノ處分ハ別ノ法デアル、之ヲ農商務省ガ自分ノ手許ニ置ク爲メニ遅レル、ソレガイケナイト云フ議論ヲ——當時次官ハ代ッテ居ラレナイガ、條件附デ國有財産ハ制定ニナツタ、ソレ故念ノ爲メ申上ゲルノデ、能ク前ニ出來マシタ調査會ノ事柄ヲ御調ベニナルト分リマス、今ノ次官ハ其時分ニハ關係ガ無イカラ、御承知ノナイノハ御無理ハナイト思ヒマス、今日ハ山林局モ變ッテ事務局ノ仕事ニナツテ居リマスガ、ツヒ一昨年ノ暮ノ事デアリマスカラ、記憶シテ居ル方ガアラウト思ヒマス、御調ベニナツテ

○田中政府委員 只今ノ御尋ナラ何モ調ベル必要モアリマセヌガ、ソレハ多分前任者ガ間違ッタコトヲ高木サニ御答シタカ知レマセヌガ、無論其時ニ立會ッテ居リマセヌカラ分リマセヌガ、私ノ只今申上ゲタ事ハ少シモ間違ハナイ、殊ニ特別會計ノ事ニ付テハ、此所ニ大藏省ノ政府委員モ居ラレマスノデ、大藏省ノ政府委員ニモ交渉シテ申上ゲタノデ、單獨ノ意見デアリマセヌ、全ク不要存置林ト云フモノヲ賣拂ヒマス、其金ハ森林ノ特別資金ニ編入サレルノデアリマス、寧ロ一日モ早ク賣拂ッテ其特別資金ヲ拵ヘタ方ガ、森林經營上便利デアリマスカラ、農商務省ハ之ヲ一日モ早ク賣ルコトニ付テハ、非常ニ進ンデ居ルノデアリマス、何カ其賣拂ハズニ森林デ持ッテ居ッタ方ガ、農商務省ノ便利デモアルヤウニ御話デアリマスカラ、ソレハ全ク御考違デアルト云フコトヲ御斷リシテ置キマス

○高木正年君 何レ調査會ノ書類ガアリマスカラ：
○委員長(清水市太郎君) 金澤君、内務省ノ政府委

員ニ材料ヲ貰ヒタイト云フコトデシタガ、内務省政府委員ガ只今御出デニナリマスカラ、モウ一度御話ニナルヤウニ

○金澤安之助君 スウ云フコトデアリマス、既往十年間ニ於ケル賣拂國有地ノ筆數及町步數、此府縣別、ソレカラ尙ホ同上ノ賣拂代金ノ府縣別、ソレカラ農商務省所管ノ國有林野ニ於テ開墾ノ府縣別及町步數、ソレカラ尙ホ雜收財産ノ府縣別及町步數ノ御調

○山田政府委員 只今ノ御申出ハ至急出來ルダケ調査ヲ致シマシテ差上ゲマス

○委員長(清水市太郎君) ソレカラ雜費財産ノ明細ヲ貰ヒタイト云フ御申出デガ誰方カラカアッタガ：

○金澤安之助君 私デス、縣別及種別デアリマス

○河本政府委員 雜種財産ノ縣別種別ト云フ御註文デアリマスガ、此雜種財産ト申シマスルモノハ、法律ニ依リマシテ從來内務省ノ官有地ト云フ取扱ニナツテ整理シテアリマシタモノデ、二ツニ分ケマシテ、詰リ國有財産ニ屬スルモノ、共有財産ニ屬スルモノト

二ツニ分ケテアリマシタガ、例ヘバ從來池沼或ハ荒蕪地トカ云フ名デ整理シタモノノ中デ、國有財産ニ屬スル即チ公共ノ直接ノ使用ニ供セラレテ居ルモノモ入ッテ居リマスルシ、サウデナイモノモ入ッテ居リマス、之ヲ區別スルト云フコトハ事實ニ付テ一々區別シナケレバ區別ガ出來マセヌノデ、此法律ガ施行セラレマシタ後デナケレバ、之ヲ纏メルコトガ出來マセヌノデアリマス、ドウカ左様御承知ヲ願ヒマス

○金澤安之助君 承知シマシタ

○委員長(清水市太郎君) ソレデハ小委員ノ諸君ノ名前ヲ申上ゲマス、澤來太郎君、宮古啓三郎君、竹上藤次郎君、高木正年君、中川幸太郎君、是ダケノ方方ニ小委員ヲ願ヒマシテ、委員長ハ參考人トシテ其處ヘ出ルコトニ致シマス、左様御承知ヲ願ヒマス、小委員會ハ何時開イタガ宜シイカ、散會後御相談ヲ致シマスカラ御集リヲ願ヒマス、然ラバ質問ハ是デ打切ルコトニ致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○委員長(清水市太郎君) 次ノ討論ノ會ハ公報ヲ以テ申上ゲルコトニ致シマス、本日ハ是デ閉會致シマス

午後四時三十一分散會